

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第233集

岩村田遺跡群 **西大門先遺跡**

長野県佐久市岩村田西大門先遺跡発掘調査報告書

2015.3

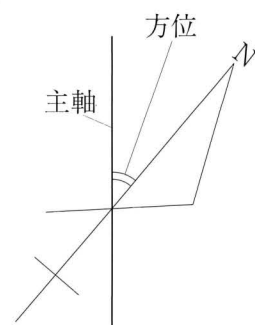
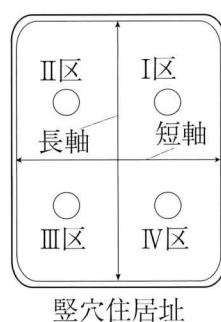
佐久市教育委員会

## 例 言

- 1 本書は平和不動産株式会社による宅地造成工事に伴う平成 26 年度岩村田遺跡群西大門先遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 事業主体者 平和不動産株式会社 代表取締役 篠澤一平
- 3 調査主体者 佐久市中込 3056 佐久市教育委員会 教育長 榎澤晴樹
- 4 遺跡名 岩村田遺跡群 西大門先遺跡 (IDS)
- 5 調査担当者 上原 学
- 6 本書の編集・執筆は上原が行った。
- 7 本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

## 凡 例

- 1 遺構の略称は以下のとおりである。  
 H- 竪穴住居址      D- 土坑      M- 溝状遺構      P- ピット
- 2 挿図の縮尺は基本的に以下のとおりである。  
 遺構- 竪穴住居址・溝状遺構・土坑・ピット 1/80  
 遺物- 土器・石器 1/4
- 3 遺物の写真番号と実測図番号は一致する。
- 4 遺構の標高は、水系高を標高とした。
- 5 調査グリッドは 4 × 4 m である。
- 6 遺物表中の [ ] は推定値、< > は残存値を表す。
- 7 スクリーントーンを表示及び遺構の計測、方位は図のとおりである。



## 目 次

例言・凡例・目次	1
第 I 章 発掘調査の経緯	1
第 1 節 発掘調査の経緯	1
1 開発事業と保護協議	1
2 文化財保護手続き	1
3 調査体制	1
第 2 節 発掘作業の経過	1
1 発掘作業	1
2 整理作業	2
第 II 章 遺跡の立地と環境	3
第 1 節 地理的環境	3
第 2 節 歴史的環境	4
第 3 節 発見された遺構と遺物	6
第 4 節 基本層序	6
第 III 章 遺構と遺物	7
第 1 節 竪穴住居址 (H)	7
第 2 節 溝状遺構 (M)	16
第 3 節 土坑 (D)	20
第 4 節 ピット (P)	20
第 5 節 遺構外遺物	21
写真	



西大門先遺跡調査区位置図 (1:50,000)

## 第 I 章 発掘調査の経緯

### 第 1 節 発掘調査の経緯

#### 1. 開発事業と保護協議

岩村田遺跡群は佐久市岩村田に所在し、佐久地域特有の浅間山の麓から放射状に延びる浸食谷に挟まれた南北方向に細長い台地上（田切り地形）に展開する弥生時代から中世に至る複合遺跡である。周辺は、以前から遺跡の密集する地域として周知されており、道路改良、区画整理事業、店舗建設等に伴う多くの発掘調査が実施されている。

今回、平和不動産株式会社が計画した宅地造成工事予定地域一帯が岩村田遺跡群に含まれることから遺跡の破壊が予測される地域及び道路部分の試掘・確認調査を実施する運びとなった。平成 26 年 11 月に調査を実施した結果、竪穴住居址・溝状遺構・土坑等の遺構が発見されたため、文化財保護協議を実施し、埋蔵文化財委託契約締結後、佐久市教育委員会が主体となり、遺跡が発見された進入道路・浸透枡・擁護壁部分の発掘調査を行った。なお、宅地面は盛土による工事であることから、今回の開発では調査対象外とした。

#### 2. 文化財保護手続き

平成 26 年 9 月 26 日	土木工事のための埋蔵文化財発掘調査の届出（93 条書類）
平成 26 年 10 月 6 日	周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）
平成 26 年 11 月 7 日	試掘調査等終了報告（県・事業主体者）
平成 26 年 12 月 4 日	発掘調査終了報告
平成 26 年 12 月 4 日	埋蔵物発見届
平成 26 年 12 月 15 日	文化財の認定及び県帰属について（通知）

#### 3. 調査体制

##### 調査受託者

佐久市教育委員会 教育長 榎澤晴樹

##### 事務局

社会教育部長	山浦俊彦					
文化財課長	三石宗一					
文化財調査係長	比田井清美					
文化財調査係	小林眞寿	富沢一明	上原学	神津一明	久保浩一郎	
嘱託職員	林幸彦					
調査主任	森泉かよ子					

調査担当者 上原学

調査員 赤羽根篤 赤羽根充江 浅沼勝男 飯森成英 岩崎重子 岩松茂年  
小幡弘子 木内修一 小林節子 羽毛田利明 比田井久美子 武者幸彦  
横尾敏雄 渡辺学

### 第 2 節 発掘作業の経過

#### 1. 発掘作業

##### (1) 遺跡の名称と記号

事業予定地は、佐久市岩村田字西大門先に所在し、佐久市遺跡詳細分布図により、岩村田遺跡群に含まれる。字名が西大門先であることから遺跡名を西大門先遺跡とし、略号は「IDS」とした。

##### (2) 遺構の名称と記号

H－竪穴住居址（地面を円形や方形に掘りくぼめ、柱穴・炉・カマド等を備えた住居と考えられるもの。佐久市では明らかに平地住居と考えられる遺構は発見されていない。）

D－土坑（地面を円形や方形に掘りくぼめたもので、陥穴・貯蔵穴・ゴミ穴等と考えられるもの。ピット・竪穴状遺構と区別するため、径または長辺が 0.5 m 以上 3 m 未満とした。）

M－溝状遺構（地面を溝状に掘り下げたもので、環濠・水路・道路・堀等と考えられるもの）

P-ピット（地面を円形や方形に掘りくぼめ、柱状のものを立てたと思われるもの。土坑と区別するため、径が0.5m未満とした。）

### (3) 調査区の設定

調査区上に国家座標（世界測地系）に基づく40×40mの大グリッドを設定し、これを更に4×4mの小グリッドに分割した交点に木製の遺構測量用基準杭を打設した。（頭部に釘設置）

グリッド名は、大グリッドを北から南方向にひらがな（あ～こ）、東から西方向に数字（1～10）に分割した。

また、調査箇所が、3箇所に分かれていることから、西側をA区、東側をB区、北側をC区とし、グリッド名をA区-1-あグリッドのようにした。

### (4) 調査の方法

調査は、試掘確認調査後の状態から遺構検出作業を実施し、一部必要箇所を手掘りにより遺構確認面まで表土除去を行った。基準杭は調査開始後に事業主体者側によって打設した。検出した遺構は命名後、掘り下げ作業を開始した。住居址のうち可能なものは4区画（I～IV区）に分割し、対角のI・III区にL字状のサブトレンチを設定し、床面まで掘り下げ分層する。分層後I・III区を層ごとに床面まで掘り下げた後、残りのII・IV区を掘り下げた。調査箇所が一部である遺構は1区画又は2区画とした。床面検出後は、壁溝・ピット等を掘り下げた。写真撮影、平面図作成を実施した後、住居址掘方の掘り下げ、写真撮影及び図面の追加作成を行った。遺物は、区画ごとに取り上げた。遺跡・遺構の全体写真は各遺構の調査が終了した時点で撮影した。遺構の平面図作成は調査区内に設定した基準杭を利用した遺り方測量により、調査担当・調査員が実施し、縮尺は1：20を基本とした。写真撮影は担当者が行い、デジタル一眼レフカメラと35mmフィルム一眼カメラによるカラーリバーサルで行った。

### (5) 日誌

平成26年11月4・5日 埋蔵文化財試掘調査。

11月7日～文化財保護協議。遺構の発見された進入道路部分・浸透枳・擁護壁にかかる遺構の発掘調査を実施し、宅地面については埋土による造成であることから調査対象外とした。

11月11日 埋蔵文化財委託契約。

11月12日～14日 調査準備・機材搬入。

11月17日 調査員による発掘調査開始。A区遺構検出作業。M1・2号溝状遺構、D1号土坑掘り下げ。検出面から深さ30cm程度で湧水が認められる。水をかき出しながらの調査となった。M1東端から土器・石器出土。

B区検出作業。M3・4・5号溝状遺構掘り下げ。

11月18・19日 M3・4・5号溝状遺構掘り下げ。検出面から30cm程度で湧水。水中ポンプを使用しての調査となった。H4号住居址掘り下げ。

H1・2・5号住居址検出作業。一部掘り下げ開始。

C区掘り下げ。M3・4号溝状遺構掘り下げ。東側でM4に切られるH3の掘り下げ作業。C区全体清掃・写真撮影。

11月20日 H1・2・5号住居址掘り下げ。H1号住居址床直上からは多数の土器が出土。H2号住居址内からD2号土坑発見。掘り下げ作業。

11月21日 H1号住居址平面図作成。H2・3号住居址炉跡調査。住居址等セクション図作成。B区全体清掃後写真撮影。

11月27日 M3・4・5号溝状遺構、H2・3・5号住居址平面図作成。H2号住居址掘方掘り下げ。

11月28日 H1・2号住居址掘方掘り下げ。写真撮影。H2の床下から、小型住居址の主柱穴と思われるピット及び炉跡を発見。炉跡調査。機材撤収開始。

12月1日 機材撤収・機材整理作業。

## 2. 整理作業

### (1) 整理の内容

整理作業は雨天による現場作業中止時及び現場作業終了後に実施した。（図面整理・図面修正、写真整理、遺構・遺物図版作成、遺物洗浄、遺物注記、遺物接合・補修修復、遺物実測、遺物写真撮影、



割付本作成、原稿執筆、印刷製本、遺物・図面収納作業。)

遺物実測は調査員が1/1で鉛筆実測したものを、1/2でトレースし、報告書掲載時の縮尺を基本的に1/4とした。

遺構図版は、1/40で鉛筆による仮割付を行った後、トレースを実施し、報告書掲載時の縮尺を基本的に1/80とした。

報告書の原稿はマイクロソフト社製「ワード」、表原稿はマイクロソフト社製「エクセル」を使用した。

## (2) 資料の収納

作業が終了した図面は、原図・印刷用図版一式をファイルに収納、写真はアルバムに収納したネガ・データと共に文化財課耐火収納庫に保管した。遺物は、報告書掲載図版と照らし合わせ、遺構ごとにコンテナへ入れた後、報告書使用遺物と未使用遺物を分けて文化財課遺物保管施設に収納した。

## (3) 日誌

平成 26 年 11 月 21・25 日	図面整理・修正、写真整理、遺物洗浄・注記作業。
12 月 8 日～12 月 26 日	図面修正、遺物接合・補修・実測・拓本作業。
平成 27 年 1 月 5 日～1 月 19 日	原稿執筆・校正作業。遺物写真撮影。遺構・遺物・写真図版作成。
平成 27 年 1 月 28 日	原稿入稿。
平成 27 年 3 月	佐久市埋蔵文化財調査報告書 第 233 集 岩村田遺跡群 西大門先遺跡刊行。

## 第Ⅱ章 遺跡の立地と環境

### 第1節 地理的環境

佐久地域は、周辺を山地台地に囲まれた盆地状を呈し、一般に佐久平と呼ばれ、北には雄大な浅間山、南には蓼科山が存在する。東には群馬県との境を成す北関東山脈の北端が延び、西は御牧原・八重原といった小高い台地が広がり、蓼科山の裾野と接している。佐久地域における水系の代表は、南方の川上谷に源を發す千曲川であり、北流しながら支流を集めつつ水量を増して佐久平に入る。その後野沢付近から流れを北西に変え、蓼科山麓の支流を集めた片貝川、浅間山の麓に源を發す湯川、関東山地からの支流を集めた滑津川といった河川と合流し、蛇行しながら上田、長野方面に貫流する。この山地に囲まれ、水にも恵まれた盆地状の佐久平は、地質学的に見ると大きく二分することができ、志賀川と滑津川が合流し、さらに千曲川と川筋を一つにする東西線を境として、河川の北側段丘上と南側では 20 m 前後の比高差が認められる。この北部地域は北方の浅間山麓部の緩やかな台地で、浅間の噴出物である火砕流軽石流と降下火山灰が厚く堆積している。この堆積物は雨水による浸食に弱く長い年月の間に深く削り取られ、浅間山の麓から放射状に幾筋もの浸食谷（田切り地形）を形成している。

これに対し南部地域は千曲川の氾濫源沖積地と滑津川の谷口扇状地等で、河床礫層と沖積粘土層地帯が主となり地下水位も高く、地盤の安定した土地である。このため南部一帯は広く水田として利用されていた。今回調査を実施した、西大門先遺跡は岩村田市街地の南方、佐久市北部地域の浸食谷（田切り地形）に挟まれた南北方向に細長い台地南端付近の、標高 698 m 内外に位置する。



岩村田遺跡群西大門先遺跡位置図(1:6,000)

## 第2節 歴史的環境

縄文時代－北東方向の湯川右岸に所在する上ノ城遺跡(37)で落とし穴、中期の土器片、石鏃・石錐・石斧、下信濃石遺跡(34)で早期の押型文土器片、湯川左岸の寺畑遺跡Ⅰ・Ⅱ(17・18)から草創期の爪形文土器が出土している。付近ではまとまった集落的な遺跡は確認されていない状況である。

弥生時代－前期は湯川右岸の下信濃石遺跡(34)でまとまった資料が出土している。土器底部2点の放射性炭素年代測定では2,400±30、2,440±30という年代が得られている。また、湯川対岸の左岸に所在する仲田遺跡(18)では胴部から口縁にかけての壺が出土している。中期後半から遺跡の数が増加する。代表的な遺跡として西八日町遺跡、東一本柳遺跡、北一本柳遺跡、西一本柳遺跡、北西の久保遺跡(23)が所在し、宮の前遺跡(36)では後期の住居址と共に、後期の土器を多く含む東西方向の溝状遺構が確認されている。また南の道路改良に伴う調査では、西一本柳遺跡Ⅳ(10)から中期～後期34軒、北一本柳遺跡Ⅲ(10)から後期48軒の住居址及び溝状遺構等の遺構が多数発見されている。湯川右岸の端部に形成された微高地上に大規模な集落が展開していたと考えられる。

古墳時代－古墳時代前期は弥生時代中期後半から急激に遺跡数が増加したにもかかわらず、佐久市内における遺跡の数が減少する。集落の規模も小規模なものが多い。本遺跡周辺では湯川対岸である左岸の今井西原遺跡(地図外)で4世紀の集落が認められる。遺跡数が増加するのはカマドが住居内に導入され始める中期後半(5世紀後半)前後になってからである。代表的な遺跡に西八日町遺跡、東一本柳遺跡、北一本柳遺跡、西一本柳遺跡、北西の久保遺跡(23)、上ノ城遺跡(37)がある。また、5～7世紀の古墳も点在しており、南方の東一本柳古墳(32)では金銅製の馬具が出土している。さらに、西方の墳丘を消失した6世紀代の北西の久保17号墳(23)周溝内からは人物(武人・巫女)、動物(馬・鹿・鳥)、器財(盾・鞆)等の埴輪が多数出土し、貴重な資料となっている。

奈良・平安時代－古墳時代後半の遺跡が所在する地域とほぼ同じ遺跡に所在することが多く、遺跡数も多い。湯川対岸の仲田遺跡(18)から寺院跡を思わせる奈良時代の八花鏡(花卉双蝶八花鏡)、寺の文字が土器表面に墨で書かれた墨書土器が出土している。

中世・近世－中世には北方の湯川右岸縁辺の断崖に沿って大井氏の城である大井城(6)(北から石並城・王城・黒岩城)が築城され岩村田一帯は城下町として栄えていた。しかし、戦国期の文明16年(1484)に村上氏の攻撃を受けると、幾度となく戦乱に巻き込まれ、衰退の一途をたどったとされている。周辺の発掘例としては、南の道路改良に伴い行われた西一本柳遺跡Ⅳ(10)、北一本柳遺跡Ⅲ(10)等の調査があり、堅穴状遺構、土坑、溝状遺構が多数発見されている。

近世中期以降になると岩村田地域は城下町であると共に宿場町としてふたたび栄えていった。江戸時代末期にはそれまでの陣屋が手狭となり、湯川右岸に藤ヶ城(33)が築城されたが、明治維新によって完成に至らなかった。本丸周辺は岩村田小学校となっており、土塁・石垣等一部が残存している。

No.	遺跡名	所在地	縄	弥	古	歴	中	近	備考
1	西大門先遺跡	岩村田西大門先		○			○		今回調査
2	西八日町遺跡Ⅰ	岩村田西八日町		○		○			S58年度調査
3	西八日町遺跡Ⅳ	岩村田西八日町		○	○	○	○		H19～21年度調査 佐久市第172集
4	上の城遺跡	岩村田上の城他			○	○			S48年度調査 「うえのじょう」
5	観音堂遺跡	岩村田観音堂				○	○		H9年度調査 佐久市第70集
6	大井城跡	岩村田		○	○		○	○	S59～61年度調査 「大井城跡」
7	内西裏遺跡Ⅰ	岩村田内西裏		○	○		○		H5年度調査
8	内西裏遺跡Ⅱ	岩村田内西裏		○			○	○	H12年度調査
9	柳堂遺跡	岩村田柳堂		○		○	○		H10年度調査 佐久市第85集
10	西一本柳遺跡Ⅳ	岩村田上樋田		○	○	○	○		H18～19年度調査 佐久市第175集
	北一本柳遺跡Ⅲ	岩村田北一本柳		○	○		○		H18～21年度調査 佐久市第175集
	東大門先遺跡Ⅱ	岩村田東大門先他		○	○	○	○		H18～22年度調査 佐久市第175集
	西八日町遺跡Ⅲ	岩村田西八日町			○	○			H19～22年度調査 佐久市第175集
	西八日町遺跡Ⅶ	岩村田			○	○			H19・20年度調査 佐久市第175集
11	東一本柳遺跡	岩村田東一本柳		○	○	○			S43年度調査
12	北一本柳遺跡	岩村田北一本柳		○		○	○		S46・47年度調査 郷土の文化財4
13	北一本柳遺跡Ⅱ	岩村田		○					H15年度調査 年報14
14	西一本柳遺跡Ⅰ	岩村田一本柳		○	○				H3・4年度調査 佐久市第34集
15	中西ノ久保遺跡Ⅰ	岩村田中西ノ久保			○	○			H4年度調査 佐久市第37集
	西一本柳遺跡Ⅱ	岩村田一本柳他		○	○	○			H4年度調査 佐久市第37集

周辺遺跡表(1)

No.	遺跡名	所在地	縄	弥	古	歴	中	近	備考
16	西一本柳遺跡Ⅲ・Ⅳ	岩村田一本柳他		○	○	○			H7・8年度調査 佐久市第73集
17	寺畑遺跡Ⅰ	猿久保下原	○						H6年度調査 佐久市第40集
18	寺畑遺跡Ⅱ	猿久保寺畑	○	○	○	○			H7年度調査 佐久市第66集
	仲田遺跡	猿久保仲田		○	○	○	○		H7年度調査 佐久市第66集
	中西ノ久保遺跡Ⅱ	岩村田南西ノ久保		○	○	○			H7年度調査 佐久市第66集
19	仲田遺跡Ⅱ	猿久保仲田			○				H18年度調査 佐久市141集
20	松の木遺跡Ⅰ・Ⅱ	岩村田松の木	○	○					H8・9年度調査 佐久市第91集
	中長塚遺跡Ⅰ・Ⅱ	岩村田中長塚							H8・10年度調査 佐久市第91集
	西一本柳遺跡Ⅴ・Ⅵ	岩村田下樋田		○	○	○			H8・9年度調査 佐久市第91集
21	中西の久保遺跡Ⅲ	岩村田中西の久保他	○	○	○				H9年度調査
22	中西の久保遺跡Ⅳ	岩村田中西の久保他		○	○				H10年度調査
23	北西の久保遺跡・古墳群	岩村田北西ノ久保		○	○	○	○		S5759年度調査 「北西の久保」
24	西一本柳遺跡Ⅶ	岩村田常木		○	○	○			H10年度調査 年報8
25	西一本柳遺跡Ⅸ	岩村田下樋田			○		○		H14年度調査 佐久市113集
26	西一本柳遺跡Ⅹ	岩村田下樋田		○	○	○	○		H15年度調査 年報14
27	西一本柳遺跡ⅩⅠ	岩村田		○					H15年度調査 年報13
28	西一本柳遺跡ⅩⅡ	岩村田下樋田			○	○	○		H16年度調査 佐久市第125集
29	西一本柳遺跡ⅩⅢ	岩村田下樋田		○	○	○			H16年度調査 佐久市第139集
30	西一本柳遺跡ⅩⅤ	岩村田常木上		○	○	○			H19年度調査 佐久市第154集
31	西一本柳遺跡ⅩⅥ	岩村田		○	○	○			H20年度調査 佐久市第160集
32	東一本柳古墳	岩村田東一本柳			○				S46年度調査 東一本柳古墳緊急発掘調査報告書11
33	藤ヶ城	岩村田							
34	下信濃石遺跡	岩村田下信濃石他	○	○			○		H16年度調査 佐久市第134集
35	西八日町遺跡Ⅶ	岩村田西八日町		○	○	○			H26年度調査 佐久市第227集
36	宮の前遺跡	岩村田宮の前		○					H18年度調査 佐久市第140集
37	上ノ城遺跡	岩村田上ノ城	○		○	○	○		H14年度調査 佐久市第111集

周辺遺跡表(2)



周辺遺跡位置図(1:11,000)

### 第3節 発見された遺構と遺物

- 遺構 竪穴住居址－5軒(弥生時代4軒、不明1軒)溝状遺構－5条(弥生時代3条、中世1条、不明1条)  
 土坑－2基(弥生時代)ピット－5個
- 遺物 弥生土器(壺・甕・鉢・高坏) 石器・石製品(環状石斧・すり石・敲石)  
 土製品(土製円盤・匙片)

### 第4節 基本層序

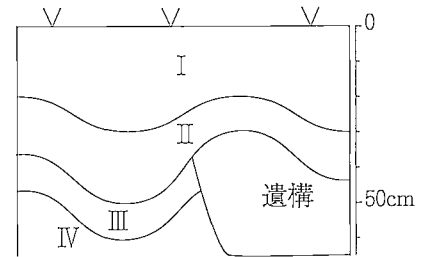
遺跡は、浅間の麓から放射状に延びる浸食谷に挟まれた『田切り』地形の細長い台地末端近くに立地する。この付近は、現在の浅間山が形成される過程で噴出した軽石流が基盤となっており、この上面を現在の表土が覆っている。今回調査を実施した地域の基本層序は以下のとおりである。

I層は層厚20～30cmを測る黒褐色土の耕作土上層で、しまり・粘性が少ない。

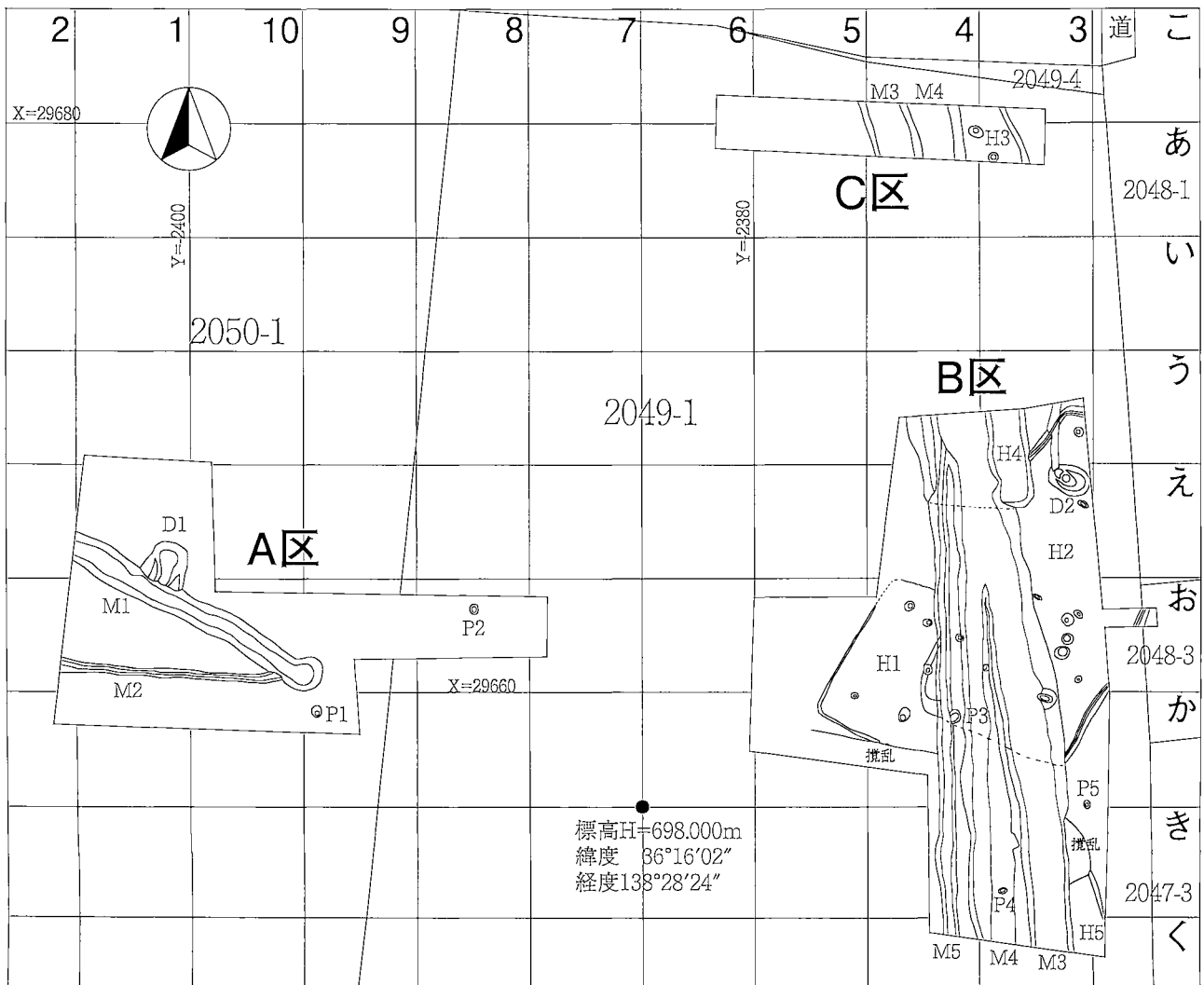
II層は層厚10～20cmを測る暗褐色土の耕作土下層で、しまり・粘性が少ない。地域によっては認められない箇所がある。

III層は層厚10cmを測る耕作土とロームの中間層の褐色土である。遺構は本土層から掘り込まれているが不鮮明である。

IV層は浅間山の噴出物である第一軽石流の黄褐色ロームである。遺構確認は、III層上面から掘り込まれているが、不鮮明なため明確に確認できるIV層上面で行った。



基本層序模式図



西大門先遺跡遺構配置図(1:250)

### 第三章 遺構と遺物

#### 第1節 竪穴住居址(H)

##### H1号住居址

遺構はB区-5-かグリッドに位置し、M3・4、H2に切られ、M5との新旧は確認できなかった。主軸はN31°Wである。

平面形態は僅かに隅の丸い長方形である。

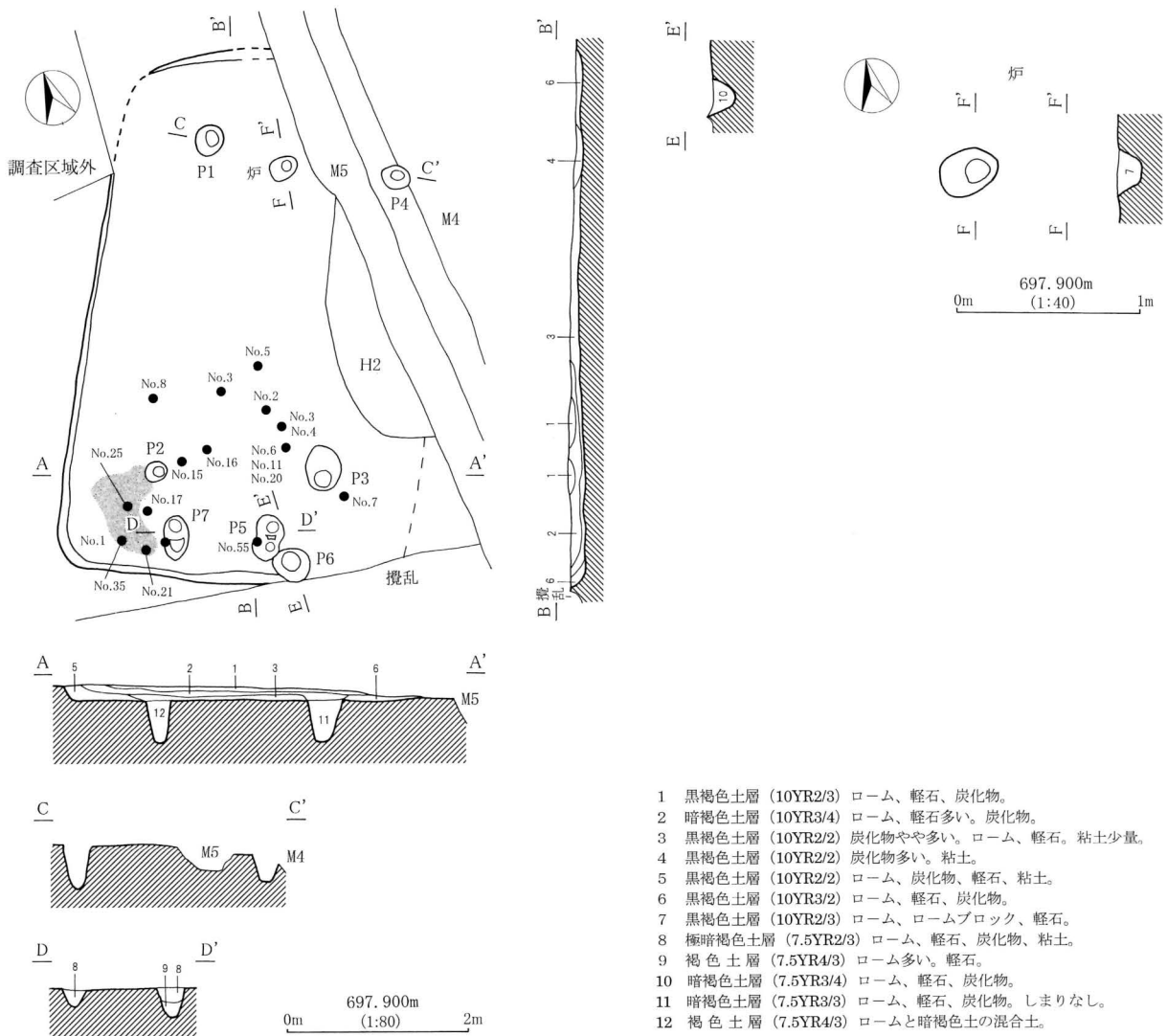
規模は長軸5.6m、短軸は調査規模の最大で4m、検出面から床面までの深さは最深で16cmを測る。

覆土は暗褐色土と黒褐色土主体で、周辺部から堆積した状況が認められることから自然堆積と考えられる。

構造上の特徴として、床面は硬質である。主柱穴はP1～P4で、南壁際に入り口に関すると思われるP5・P7が存在する。P1とP4の間に地面を掘り下げた円形の窪みが存在し、位置的に炉跡と考えられる。床の硬質面直下は地山のロームとなり、明確な掘方は確認できなかった。

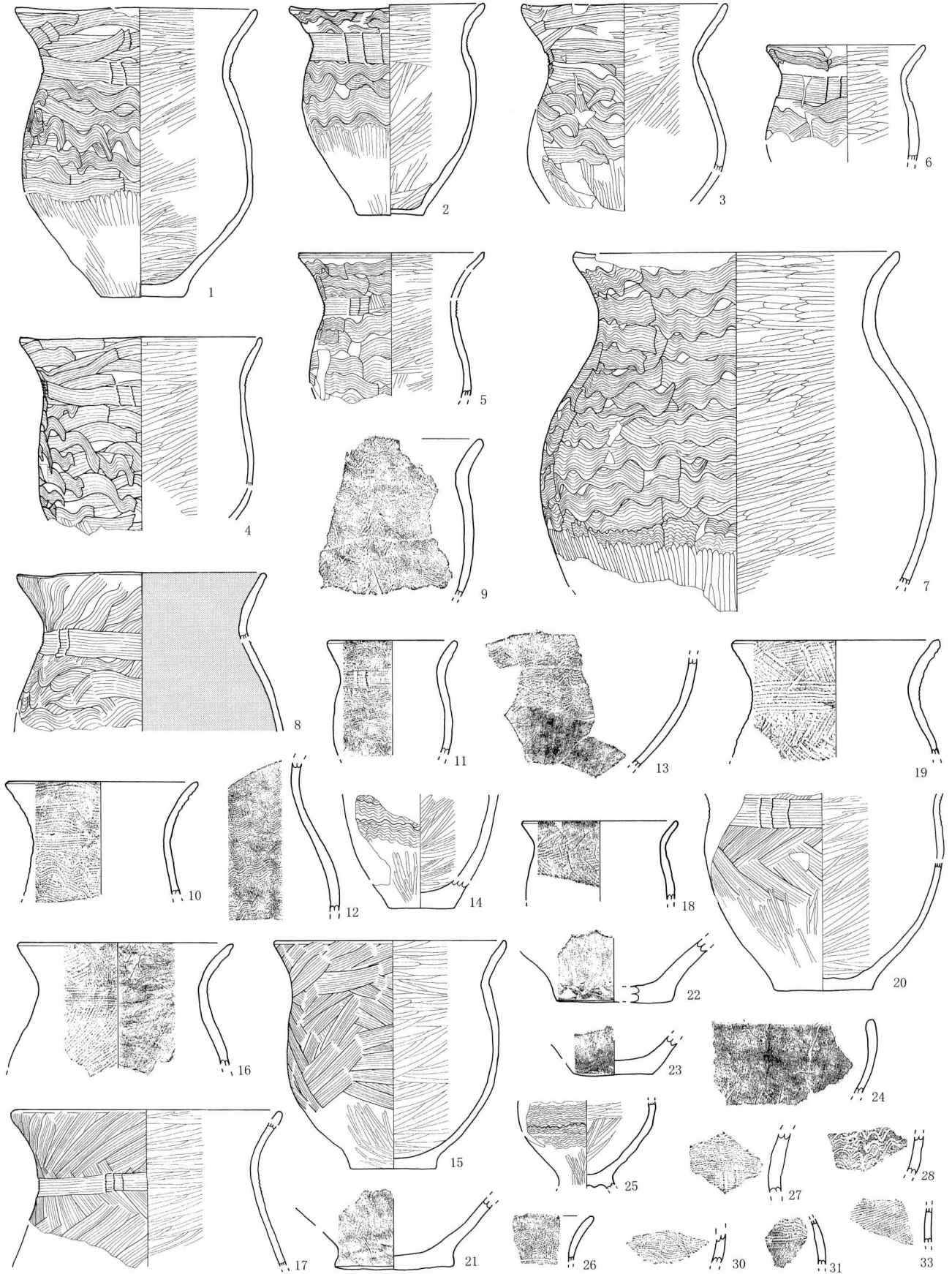
遺物は床直上を中心に多数の弥生土器(甕・壺・鉢・高坏)、土製品(匙片・土製円盤)が出土した。形状が残る器種は小型の甕・鉢に多く、壺・高坏には全体の形状が判断できる個体は見当たらない。

時期は、弥生時代後期後半箱清水期としたい。

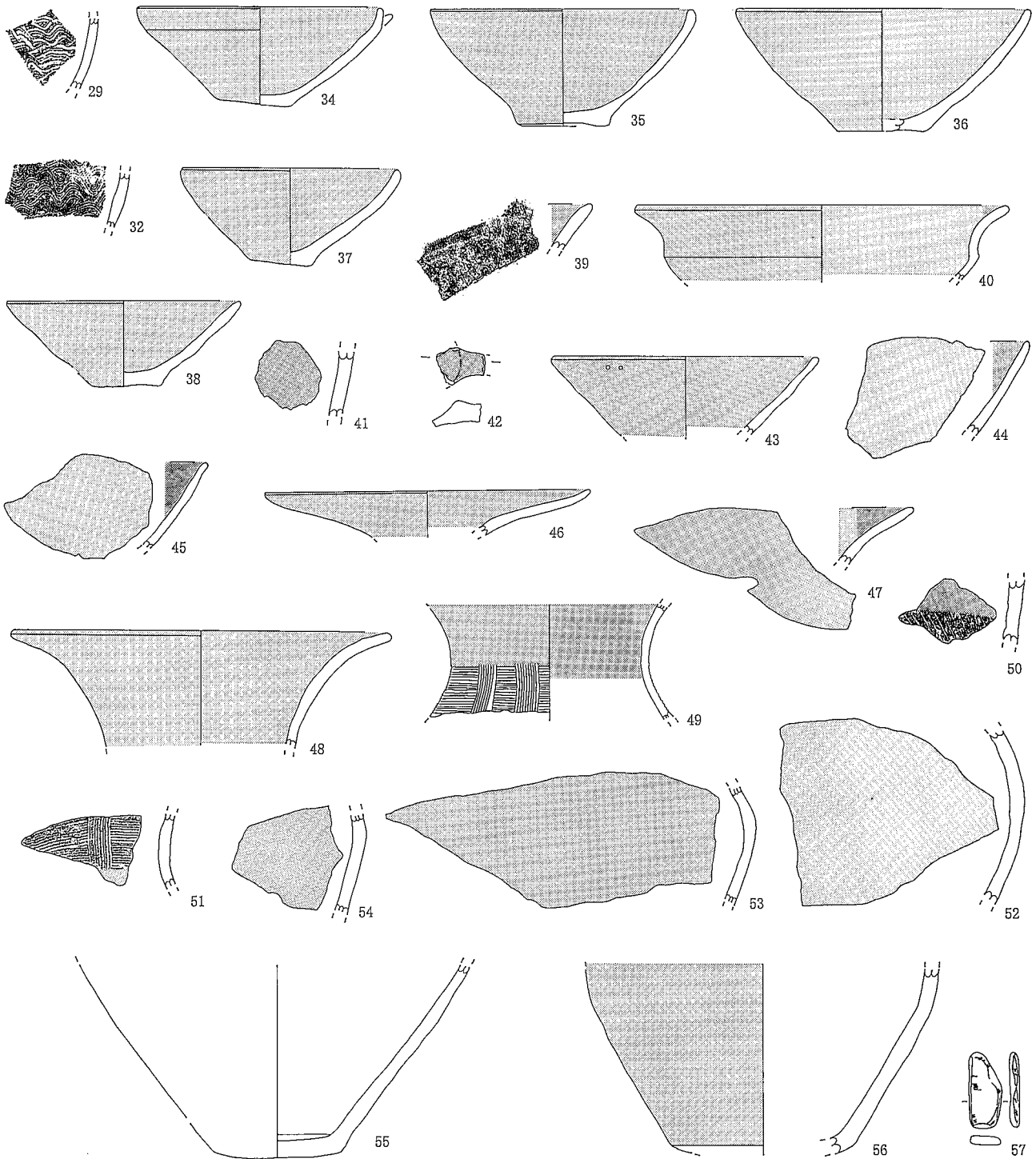


H1号住居址実測図





H1号住居址遺物実測図(1)



H1号住居址遺物実測図(2)

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
1	弥生土器	甕	15.1	5.8	20	外面 口縁・胴上半部櫛描波状文、頸部櫛描籐状文、胴下半部縦ミガキ 内面 ミガキ	95	外面7.5YR5/2灰褐色他 完全実測 II・III区
2	弥生土器	甕	14.2	4.8	15.3	外面 口縁・胴上半部櫛描波状文、頸部櫛描籐状文、胴下半部縦ミガキ 内面 ミガキ	95	外面7.5YR5/3にふい褐色 完全実測
3	弥生土器	甕	15.1	-	<15.0>	外面 口縁・胴上半部緩やかな櫛描波状文、頸部櫛描籐状文、 胴下半部縦ミガキ 内面 ミガキ	50	外面7.5YR6/6橙色他 完全実測・一部回転 No遺物
4	弥生土器	甕	17.4	-	<14.0>	外面 口縁・胴上半部櫛描波状文、頸部櫛描籐状文、胴下半部縦ミガキ 内面 ミガキ	50	外面7.5YR5/2灰褐色他 完全実測・一部回転
5	弥生土器	甕	13.5	-	<10.6>	外面 口縁・胴上半部櫛描波状文、頸部櫛描籐状文、胴下半部縦ミガキ 内面 ミガキ	50	外面7.5YR5/3にふい褐色他 回転実測
6	弥生土器	甕	11.6	-	<8.5>	外面 口縁・胴上半部櫛描波状文、頸部櫛描籐状文、胴下半部縦ミガキ 内面 ミガキ	40	外面7.5YR5/1褐灰色 回転実測

H1号住居址遺物観察表(1)

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
7	弥生土器	甕	[23.6]	-	<24.2>	外面 口縁・胴上部櫛描波状文、胴下部ミガキ 内面 横ミガキ	胴部～口縁破片	外面7.5YR5/3にぶい褐色他 回転実測
8	弥生土器	甕	18	-	<11.5>	外面 口縁・胴上部緩やかな櫛描波状文、頸部櫛描簾状文 赤色塗彩	胴部～口縁破片	外面7.5YR6/3にぶい褐色 完全実測・一部回転
9	弥生土器	甕	-	-	-	外面 櫛描波状文 内面 横ミガキ	胴部～口縁破片	外面7.5YR3/1黒褐色 破片実測
10	弥生土器	甕	[13.9]	-	<8.2>	外面 緩やかな櫛描波状文、頸部櫛描簾状文 内面 横ミガキ	胴部～口縁破片	外面7.5YR5/2灰褐色他 回転実測
11	弥生土器	甕	[9.6]	-	<8.3>	外面 櫛描波状文、頸部櫛描簾状文 内面 横斜めミガキ	胴部～口縁破片	外面5YR5/1灰褐色他 回転実測
12	弥生土器	甕	-	-	-	外面 櫛描波状文 内面 横ミガキ	胴部～頸部破片	外面7.5YR6/3にぶい褐色他 破片実測
13	弥生土器	甕	-	-	-	外面 櫛描波状文、縦ミガキ 内面 横ミガキ	胴部破片	外面5YR5/3にぶい赤褐色 破片実測
14	弥生土器	甕	-	4.9	<8.3>	外面 櫛描波状文・ミガキ 内面 横斜めミガキ	底部～胴下部破片	外面5YR4/2灰褐色他 完全実測・一部回転
15	弥生土器	甕	17	6.2	16.5	外面 口縁・胴上半部櫛描斜走文、下部ミガキ 内面 ミガキ	95	外面7.5YR5/3にぶい褐色他 完全実測
16	弥生土器	甕	[15.6]	-	<9.1>	外面 口縁・胴部櫛描斜走文、頸部櫛描簾状文 内面 横ミガキ	胴部～口縁破片	外面7.5YR5/2灰褐色他 回転実測
17	弥生土器	甕	[19.6]	-	<11.6>	外面 口縁・胴部櫛描羽状文、頸部櫛描簾状文 内面 横ミガキ	胴部～口縁	外面7.5YR7/2明褐色 完全実測・一部回転
18	弥生土器	甕	[11.4]	-	<5.8>	外面 口縁・胴部櫛描羽状文、内面 横ミガキ	口縁破片	外面5YR5/4にぶい赤褐色 回転実測
19	弥生土器	甕	[15.2]	-	<8.3>	外面 口縁・胴部櫛描羽状文、頸部櫛描簾状文 内面 横ミガキ	胴部～口縁破片	外面7.5YR6/3にぶい褐色 回転実測
20	弥生土器	甕	-	7.1	<14.3>	外面 胴部上半部櫛描羽状文、下部ヘラミガキ、頸部櫛描簾状文 内面 ミガキ	60	外面5YR5/2灰褐色 完全実測・一部回転
21	弥生土器	甕	-	8.5	<5.2>	外面 ミガキ、やや磨耗 内面 ミガキ	底部～胴一部	外面7.5YR5/1褐灰色 完全実測・一部回転
22	弥生土器	甕	-	[8.3]	<4.6>	外面 縦ミガキ 内面 ヘラナデ 底部木葉痕	底部～胴一部	外面5YR7/2明褐色 回転実測
23	弥生土器	甕	-	5.8	<2.8>	外面 ミガキ 内面 ミガキ	底部～胴一部	外面5YR4/1褐灰色 完全実測・一部回転
24	弥生土器	鉢	-	-	-	外面 ヘラケズリ後ミガキ 内面 横ミガキ	口縁破片	外面5YR3/3暗赤褐色 断面実測
25	弥生土器	台付甕	-	-	<6.4>	外面 甕部上半部櫛描波状文、下部ミガキ 内面 ナデ	甕部下部破片	外面5YR5/2灰褐色 完全実測・一部回転
26	弥生土器	甕	-	-	-	外面 櫛描波状文 内面 ミガキ	口縁破片	外面7.5YR4/3褐色 断面実測
27	弥生土器	甕	-	-	-	外面 櫛描波状文、櫛描簾状文 内面 ナデ、剥離部多い	頸部破片	外面10YR8/4浅黄褐色 断面実測
28	弥生土器	甕	-	-	-	外面 櫛描波状文 内面 ミガキ	破片	外面2.5YR4/3にぶい赤褐色 断面実測
29	弥生土器	甕	-	-	-	外面 櫛描波状文 内面 ミガキ	破片	外面7.5YR4/2灰褐色 断面実測
30	弥生土器	甕	-	-	-	外面 櫛描波状文 内面 ミガキ	破片	外面7.5YR5/2灰褐色 断面実測
31	弥生土器	甕	-	-	-	外面 櫛描波状文 内面 ミガキ	破片	外面7.5YR5/2灰褐色 断面実測
32	弥生土器	甕	-	-	-	外面 櫛描波状文 内面 ミガキ、ナデ	破片	外面10YR8/3浅黄褐色 断面実測
33	弥生土器	甕	-	-	-	外面 櫛描斜走文 内面 ミガキ	破片	外面7.5YR3/1黒褐色 断面実測
34	弥生土器	鉢	16.2	5.1	6.5	内外面 赤色塗彩 片口	60	内外面10R4/6赤色 完全実測
35	弥生土器	鉢	17.4	6	7.7	内外面 赤色塗彩	80	内外面7.5R4/8赤色 完全実測
36	弥生土器	鉢	[19.4]	[5.7]	8.1	内外面 赤色塗彩 内面 磨耗	40	外面10R4/6赤色 回転実測
37	弥生土器	鉢	[14.6]	4.1	6.5	内外面 赤色塗彩	60	外面7.5R3/4暗赤色他 完全実測・一部回転
38	弥生土器	鉢	[15.5]	4.6	5.7	内外面 赤色塗彩、表面磨耗	20	外面7.5R4/6赤色他 回転実測
39	弥生土器	高坏	-	-	-	内外面 赤色塗彩、表面磨耗	口縁破片	外面5YR7/4にぶい橙色他 断面実測
40	弥生土器	高坏	[24.6]	-	-	内外面 赤色塗彩	口縁破片	外面10R4/8赤色 回転実測
41	弥生土器	土製円盤	径4.5	厚1	-	外面 赤色塗彩 内面 ナデ	壺片使用	外面10R5/6赤色 断面実測
42	弥生土器	土製匙	-	-	-	外面 赤色塗彩	破片	外面10R6/6赤褐色 断面実測
43	弥生土器	鉢	[17.7]	-	-	内外面 赤色塗彩、口縁部穿孔2あり	口縁破片	外面2.5YR4/8赤褐色他 回転実測
44	弥生土器	鉢	-	-	-	内外面 赤色塗彩	口縁破片	外面10R5/6赤色 断面実測
45	弥生土器	鉢	-	-	-	内外面 赤色塗彩	口縁破片	外面10R6/8赤褐色 断面実測
46	弥生土器	壺	[21.6]	-	-	内外面 赤色塗彩	口縁破片	外面10R4/8赤色 回転実測
47	弥生土器	壺	-	-	-	内外面 赤色塗彩	口縁破片	外面10R5/6赤色 断面実測
48	弥生土器	壺	[25.4]	-	-	内外面 赤色塗彩、やや磨耗	口縁破片	外面10R6/8赤褐色 回転実測
49	弥生土器	壺	-	-	<7.8>	口縁部内外面赤色塗彩、やや磨耗、頸部櫛描横線文・垂下文	頸部口辺破片	外面7.5R4/6赤色 回転実測
50	弥生土器	壺	-	-	-	外面 赤色塗彩、頸部斜走文 内面 ナデ	頸部破片	外面10R4/6赤色他 断面実測
51	弥生土器	壺	-	-	-	外面 赤色塗彩、頸部櫛描横線文・垂下文 内面 ナデ	頸部破片	外面7.5YR7/6褐色 断面実測
52	弥生土器	壺	-	-	-	外面 赤色塗彩 内面 ナデ	胴部破片	外面10R5/6赤色 断面実測
53	弥生土器	壺	-	-	-	外面 赤色塗彩 内面 ヘラナデ	胴部破片	外面10YR5/8赤色 断面実測
54	弥生土器	壺	-	-	-	外面 赤色塗彩 内面 刷毛目状ナデ	胴部破片	外面10R5/8赤色他 断面実測
55	弥生土器	壺	-	8.7	<12.8>	外面 縦ミガキ、やや磨耗 内面 ナデ、一部剥離	底部～胴部破片	外面2.5YR5/6明赤褐色 完全実測・一部回転
56	弥生土器	壺	-	[12.2]	-	外面 赤色塗彩、やや色落ち 内面 ナデ、やや磨耗	底部～胴部破片	外面2.5YR5/6明赤褐色 回転実測
番号	器種	器形	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	調整・文様	重量(g)	備考
57	石器	すり石	5.1	2.1	0.6	全体に滑らか すり痕あり	11.08	

H1号住居址遺物観察表(2)



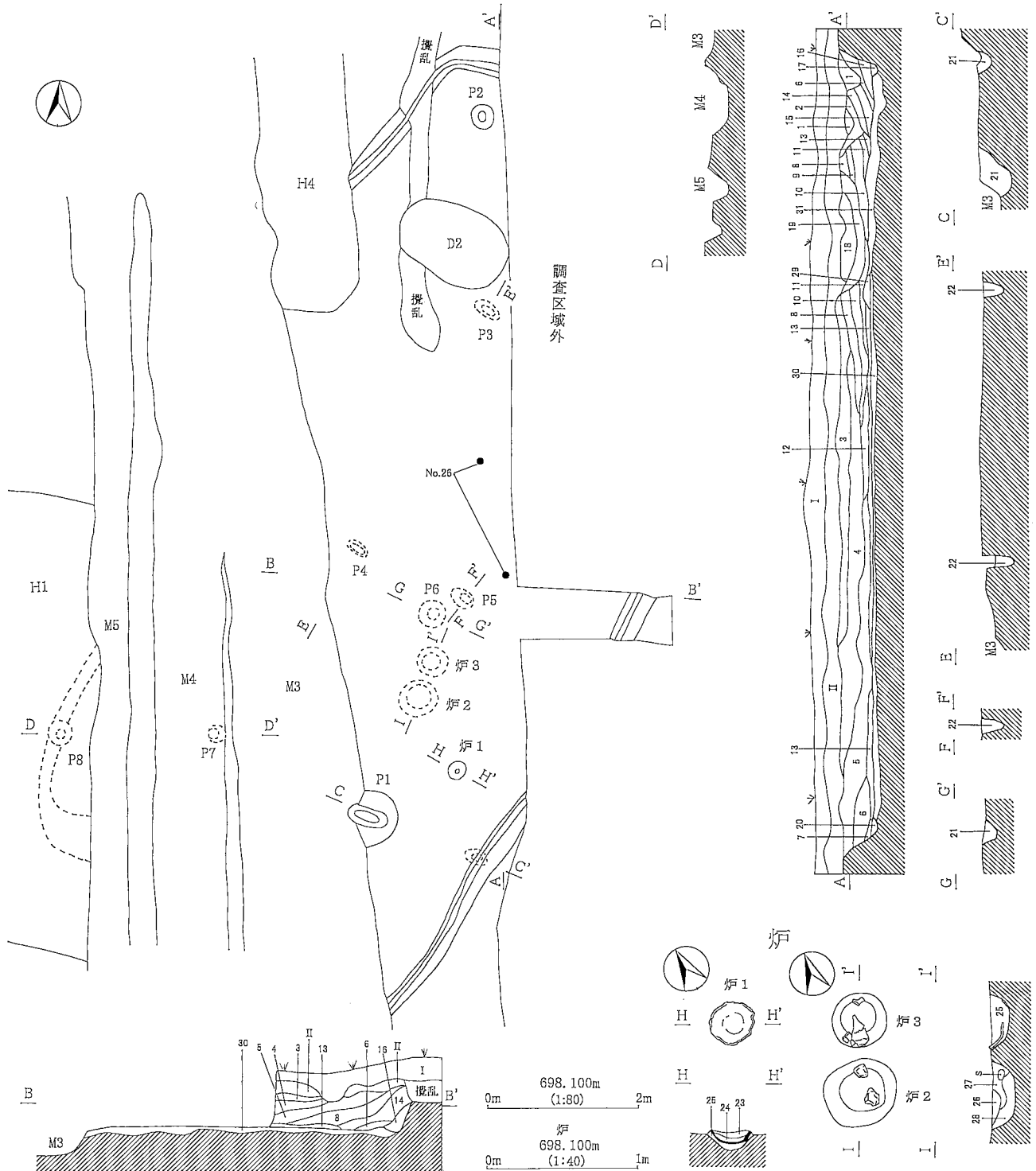
H 2 号住居址

遺構はB区-3-おグリッドに位置し、H4、M3・4に切られ、H1、D2を切る。M5との新旧は確認できなかった。主軸はN 32° Wである。遺構の東側は調査区域外となる。

平面形態は調査状況から、僅かに隅に丸みを持った長方形である。

調査規模は長軸約 12.1 m、短軸は調査規模の最大で 6.1 mを測る大型住居址である。検出面から床面までの深さは 30cmを測る。

覆土は周囲から堆積した状況が認められることから自然堆積と考えられる。



H2号住居址遺構実測図

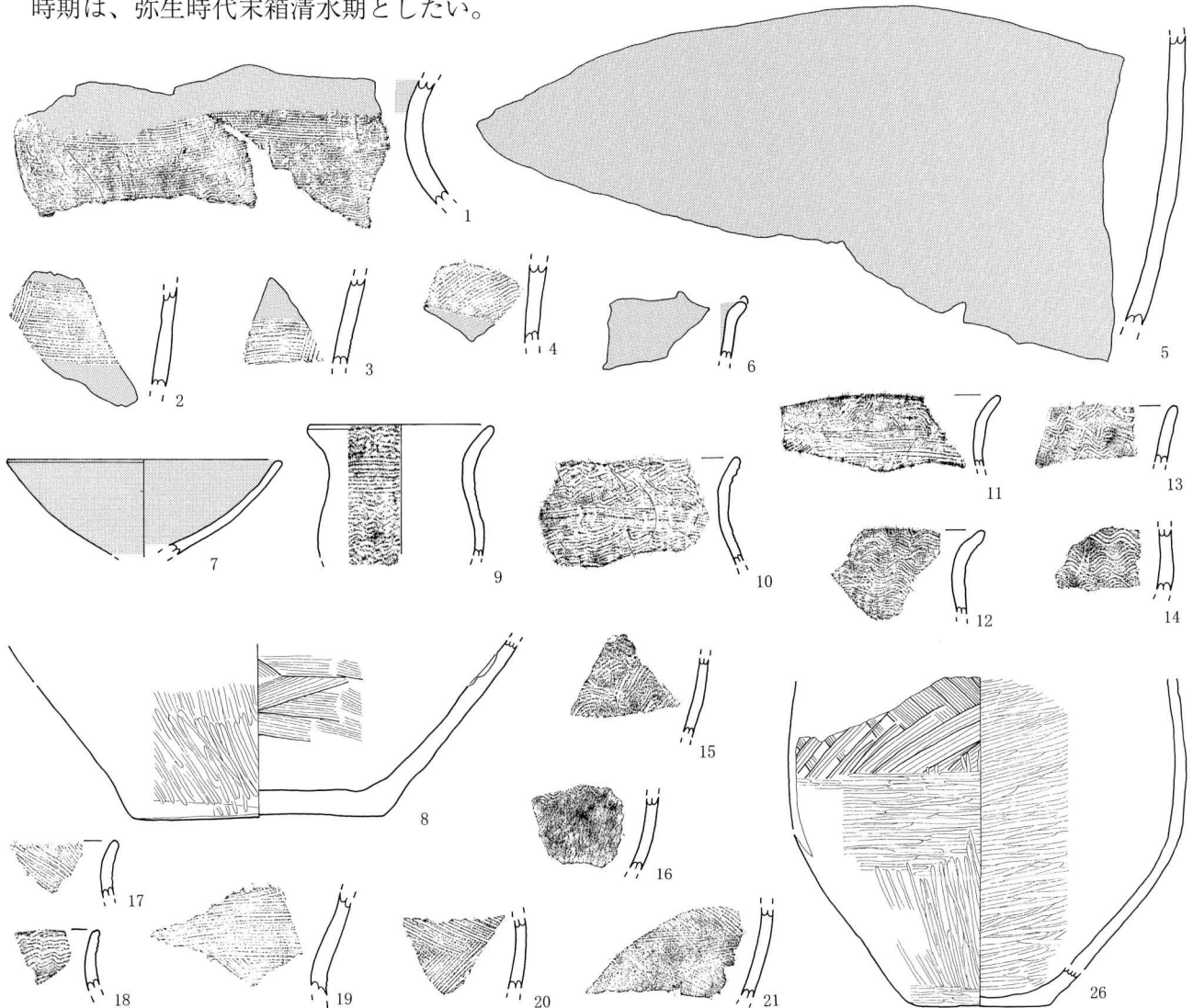
- 1 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム、軽石。
- 2 黒褐色土層 (10YR3/2) ローム、軽石。
- 3 黒褐色土層 (10YR2/1) ローム微量、軽石、炭化物。
- 4 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム、軽石やや多い。炭化物。
- 5 暗褐色土層 (10YR3/4) ローム、軽石多い、炭化物。
- 6 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム、軽石少量。
- 7 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム、ロームブロック、軽石。
- 8 暗褐色土層 (10YR2/3) ローム、軽石、炭化物。
- 9 褐色土層 (10YR4/4) ローム主体。暗褐色土。
- 10 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム、軽石、炭化物。
- 11 暗褐色土層 (10YR3/4) ローム、軽石、炭化物。
- 12 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム、軽石。炭化物やや多い。
- 13 暗褐色土層 (10YR3/4) ローム、ロームブロック、軽石、炭化物。
- 14 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム、軽石微量。
- 15 褐色土層 (10YR4/4) ローム主体。暗褐色土。

- 16 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム、軽石少量。
- 17 褐色土層 (10YR4/6) ローム主体。しまりなし。
- 18 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム、軽石少量。
- 19 暗褐色土層 (10YR3/4) ローム、軽石少量。
- 20 暗褐色土層 (7.5YR3/4) ロームと褐色土の混合土。
- 21 暗褐色土層 (7.5YR3/3) ローム、軽石、炭化物。
- 22 褐色土層 (7.5YR4/6) ローム主体。暗褐色土。
- 23 暗褐色土層 (7.5YR3/3) ローム、軽石、炭化物、灰。
- 24 黒褐色土層 (10YR2/2) 炭化物、灰、焼土。
- 25 黒褐色土層 (7.5YR2/2) ロームブロック、軽石、炭化物。
- 26 極暗褐色土層 (7.5YR2/3) ローム、軽石。
- 27 褐色土層 (7.5YR4/4) ローム多い。ロームブロック、炭化物。
- 28 黒褐色土層 (7.5YR2/2) ローム、軽石、炭化物。
- 29 赤褐色土層 (5YR4/6) ローム主体。
- 30 赤褐色土層 (5YR4/8) ローム主体。暗褐色土。
- 31 褐色土層 (7.5YR4/6) ロームと暗褐色土の混合土。

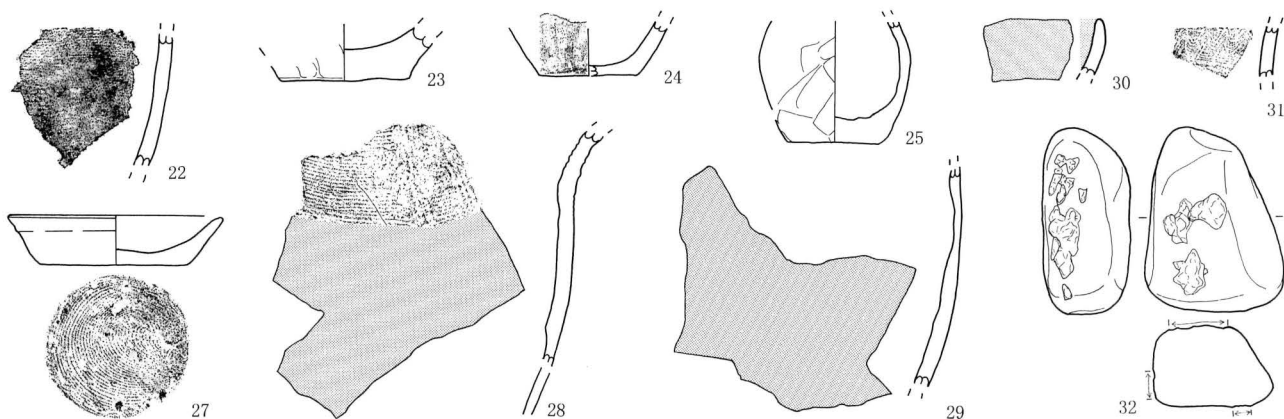
構造上の特徴として、床面は硬質で、壁際に幅15cm、深さ5cm内外の壁溝が存在する。主柱穴はP1及びM4に上部を破壊されたP7と思われる。北側のピットは位置的にD2に破壊され、残りは調査区域外に存在すると考えられる。炉跡はP1の北東80cmに位置する。壺の底部を利用した土器埋設炉である。通常、主となる炉は北壁側の主柱穴間に存在することから、今回発見された炉は補助的なものであろう。掘方は弥生時代後期の住居にしては厚く、ローム主体の黄褐色土が埋め込まれていた。掘方直下からは、本住居址と主軸を同じくする、住居址の主柱穴と思われる楕円形のP3・4・5及び円形に並んで掘り窪められた2個の炉跡が存在した。住居址の拡張または建て替え等が行われた可能性が窺える。

遺物は弥生土器（甕、壺、鉢、高坏）が出土した。大半が破片資料であり、全体の形状が残る個体は見当たらない。

時期は、弥生時代末箱清水期としたい。



H2号住居址遺物実測図(1)



H2号住居址遺物実測図(2)

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
1	弥生土器	壺	-	-	-	口縁部内外面赤色塗彩 外面 頸部櫛描簾状文・櫛描波状文 内面 ナデ	頸部破片	外面10R4/8赤色他 断面実測
2	弥生土器	壺	-	-	-	外面 赤色塗彩、頸部櫛描横線文・垂下文 内面 ナデ、やや磨耗	頸部破片	外面10R4/6赤色他 断面実測
3	弥生土器	壺	-	-	-	外面 赤色塗彩、頸部櫛描横線文・垂下文 内面 ナデ、やや磨耗	頸部破片	外面2.5YR4/8赤褐色 断面実測
4	弥生土器	壺	-	-	-	外面 赤色塗彩、頸部櫛描斜走文 内面 磨耗	頸部破片	外面5YR6/4にぶい橙色他 断面実測
5	弥生土器	壺	-	-	-	外面 赤色塗彩 内面 ナデ	胴部破片	外面2.5YR4/6赤褐色 断面実測
6	弥生土器	高坏	-	-	-	内外面 赤色塗彩	口縁破片	内外面10R4/8赤色 断面実測
7	弥生土器	鉢	[15.8]	-	-	内外面 赤色塗彩	25	内外面10R3/6暗赤色 回転実測
8	弥生土器	壺	-	14.4	<10.1>	外面 ミガキ 内面 刷毛目状ナデ	底部～胴一部	外面5YR6/4にぶい橙色 完全実測 かに使用
9	弥生土器	甕	[10.4]	-	-	外面 櫛描波状文、頸部櫛描簾状文 内面 横ミガキ	口縁～頸部破片	外面7.5YR6/2灰褐色 回転実測
10	弥生土器	甕	-	-	-	外面 櫛描波状文、頸部櫛描簾状文 内面 横ミガキ	胴部～口縁破片	外面7.5YR6/3にぶい褐色他 断面実測
11	弥生土器	甕	-	-	-	外面 櫛描波状文、頸部櫛描簾状文 内面 横ミガキ	口縁～頸部破片	外面10YR4/2灰黄褐色 断面実測
12	弥生土器	甕	-	-	-	外面 櫛描波状文 内面 横ミガキ	口縁破片	外面5YR5/4にぶい赤褐色 断面実測
13	弥生土器	甕	-	-	-	外面 櫛描波状文 内面 ナデ	口縁破片	外面10YR6/4にぶい橙色他 断面実測
14	弥生土器	甕	-	-	-	外面 櫛描波状文 内面 ナデ	破片	外面5YR6/6橙色 断面実測
15	弥生土器	甕	-	-	-	外面 櫛描波状文 内面 ナデ	破片	外面7.5YR5/4にぶい褐色 断面実測
16	弥生土器	甕	-	-	-	外面 櫛描波状文、ミガキ 内面 ミガキ	破片	外面7.5YR5/4にぶい褐色 断面実測
17	弥生土器	甕	-	-	-	外面 櫛描斜線文 内面 ミガキ	破片	外面7.5YR6/4にぶい橙色 断面実測
18	弥生土器	甕	-	-	-	外面 櫛描波状文 内面 ナデ	破片	外面7.5YR6/4にぶい褐色 断面実測
19	弥生土器	甕	-	-	-	外面 櫛描斜線文 内面 ミガキ	破片	外面7.5YR7/3にぶい褐色 断面実測
20	弥生土器	甕	-	-	-	外面 櫛描羽状文 内面 ナデ	破片	外面7.5YR4/3褐色 断面実測
21	弥生土器	甕	-	-	-	外面 交差する櫛描斜走文 内面 ミガキ	破片	外面5YR4/2灰褐色 断面実測
22	弥生土器	甕	-	-	-	外面 櫛描文、ミガキ 内面 ミガキ	破片	外面2.5YR4/4にぶい赤褐色 断面実測
23	弥生土器	壺Or甕	-	6.8	<2.7>	外面 ミガキ 内面 ナデ	底部～胴一部	外面10YR5/3にぶい黄褐色 完全実測
24	弥生土器	甕	-	[5.4]	-	外面 ミガキ 内面 ナデ	底部～胴一部	外面7.5YR4/3褐色 回転実測
25	弥生土器	小型甕	-	4.7	<6.4>	内外面 ナデ	底部～胴部破片	外面7.5YR5/3にぶい褐色 完全実測・一部回転
26	弥生土器	甕	-	7.9	<19.1>	外面 胴上部櫛描羽状文、胴下部縦横ミガキ 内面 ミガキ	底部～胴部破片	外面5YR8/2灰白色 完全実測・一部回転
27	かわらけ	坏	11.4	7.5	2.6	ロクロ横ナデ 底部回転糸切り	95	外面5YR6/4にぶい褐色 完全実測
28	弥生土器	壺	-	-	-	外面 赤色塗彩、頸部櫛描横線文・垂下文 内面 磨耗	頸部付近破片	外面10R4/8赤色他 断面実測 No29と同一の可能性
29	弥生土器	壺	-	-	-	外面 赤色塗彩 内面 磨耗	胴部破片	外面10R4/8赤色 断面実測 No28と同一の可能性
30	弥生土器	鉢	-	-	-	内外面 赤色塗彩	口縁破片	内外面2.5YR4/8赤色 断面実測
31	弥生土器	甕	-	-	-	外面 櫛描波状文、櫛描横線文 内面 ナデ	破片	外面5YR4/4にぶい赤褐色 断面実測
番号	器種	器形	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	調整・文様	重量(g)	備考
32	石器	敲き石?	9.9	7.2	4.3	正面・側面に敲打状痕跡あり 炉出土のため、使用痕または熱によるものかは判断できない	492.32	炉出土

H2号住居址遺物観察表

### H3号住居址

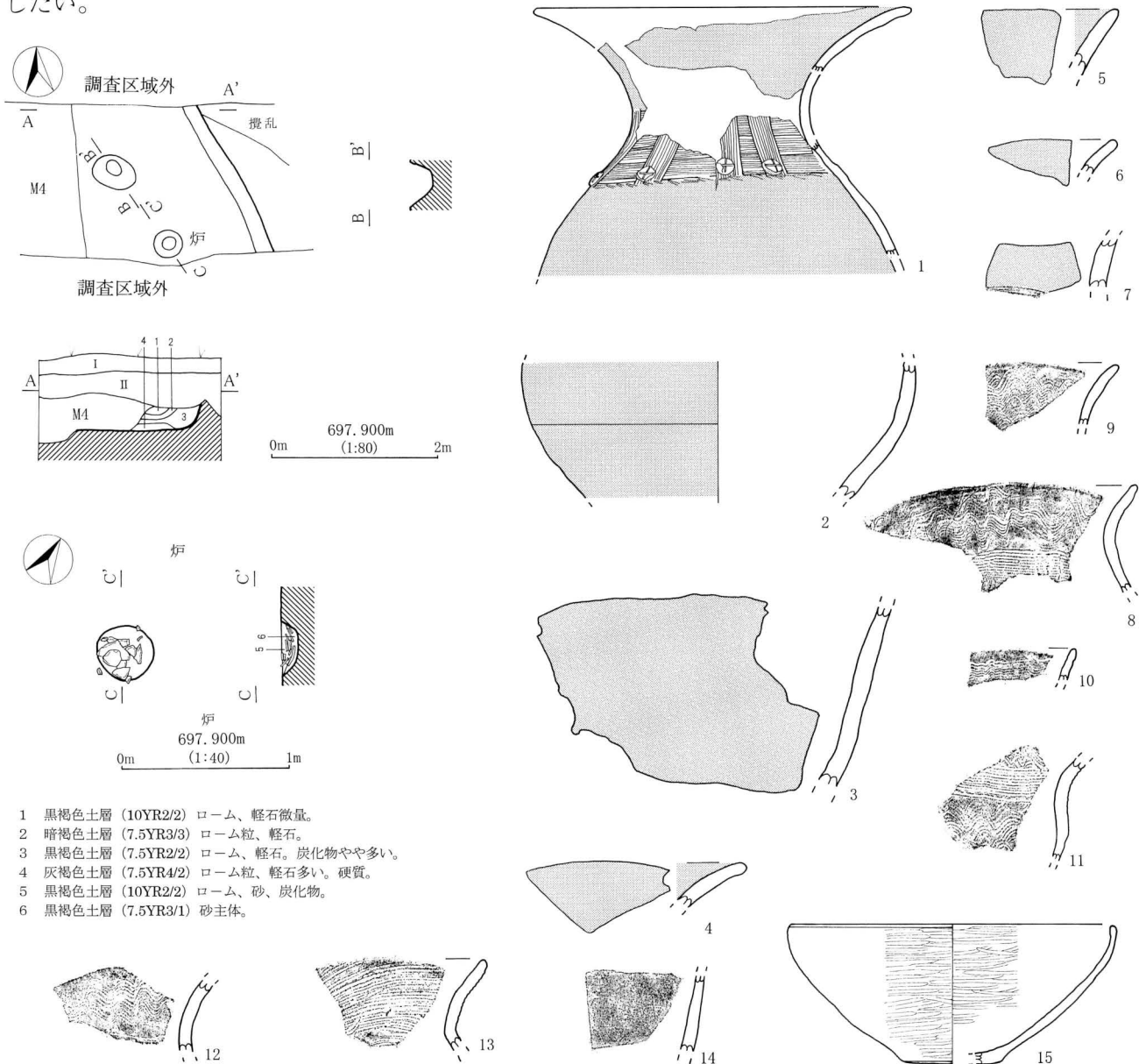
遺構はC区-4-あグリッドに位置し、M4に切られる。主軸はN 22° Wである。  
平面形態は調査範囲が狭小のため確定できない。  
調査規模は、南北 1.8 m、東西 2.0 m、検出面から床面までの深さは 24cmを測る。

覆土は地山のローム、軽石を含む暗褐色土・黒褐色土で壁際から徐々に堆積した状況を示すことから自然堆積と考えられる。

構造上の特徴として、床面は硬質面を持つ。ピットは1個確認でき、ピットの南東70cmに細かい土器片を幾重にも敷き詰めた炉跡が存在した。

遺物は、弥生土器（甕、壺、鉢）が出土したが、形状を残すものは少ない。炉に敷き詰められた土器片が接合の結果、壺の形状を示す程度まで復元できた程度である。

時期は、炉から出土した壺の口縁が低く開き、球胴化が認められることから、弥生時代末箱清水期としたい。



H3号住居址遺構・遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
1	弥生土器	壺	[23]	-	<15>	外面 赤色塗彩、頸部櫛描横線文・垂下文、円形貼付文 内面 口辺部赤色塗彩、胴部磨耗	30	外面2.5Y4/8赤褐色完全実測・一部回転
2	弥生土器	壺	-	-	<8.2>	外面 赤色塗彩 内面 ナデ、やや磨耗	胴部破片	外面10R4/8赤色回転実測
3	弥生土器	壺	-	-	-	外面 赤色塗彩 内面 ナデ、やや磨耗	胴部破片	外面10R5/8赤色断面実測
4	弥生土器	壺	-	-	-	内外面 赤色塗彩	口縁破片	内外面10R4/8赤色断面実測
5	弥生土器	壺	-	-	-	内外面 赤色塗彩	口縁破片	内外面10R4/8赤色断面実測

H3号住居址遺物観察表(1)

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
6	弥生土器	壺?	-	-	-	外面 赤色塗彩	口縁破片	外面10R5/8赤色 断面実測
7	弥生土器	壺	-	-	-	外面 赤色塗彩、櫛描横線文	頸部破片	外面10R5/4赤褐色 断面実測
8	弥生土器	甕	-	-	-	外面 櫛描波状文、頸部櫛描旋状文 内面 ナア	頸部～口縁破片	外面7.5YR5/4にぶい褐色 断面実測
9	弥生土器	甕	-	-	-	外面 櫛描波状文 内面 ナア	口縁破片	外面5YR7/4にぶい橙色 断面実測
10	弥生土器	甕	-	-	-	外面 櫛描波状文 内面 ナア、やや磨耗	口縁破片	外面2.5YR6/6褐色 断面実測
11	弥生土器	甕	-	-	-	外面 櫛描波状文、頸部櫛描旋状文 内面 ミガキ	頸部周辺破片	外面7.5YR4/4褐色 断面実測
12	弥生土器	甕	-	-	-	外面 櫛描波状文 内面 ナア	胴部破片	外面5YR6/1褐灰色他 断面実測
13	弥生土器	甕	-	-	-	外面 櫛描斜走文 内面 ナア	口縁破片	外面5YR4/6赤褐色 断面実測
14	弥生土器	壺or甕	-	-	-	外面 ミガキ 内面 刷毛目状ナア	胴部破片	外面7.5YR6/3にぶい褐色 断面実測
15	弥生土器	鉢	[19.8]	[6]	8.3	外面 ミガキ 内面 ミガキ	60	外面7.5YR7/3にぶい橙色 回転実測

H3号住居址遺物観察表(2)

H4号住居址

遺構はB区-4-えグリッドに位置し、M3・4・5に切られる。主軸はN9°Wである。

平面形態は、調査範囲から方形または長方形と思われる。

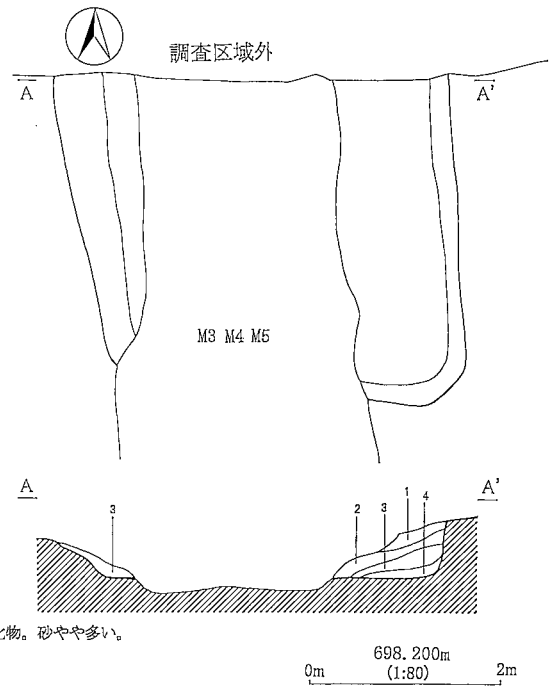
調査規模は、南北3.2m、東西2.0m、検出面から床面までの深さは60cmを測る。

覆土は上層から黒褐色土、暗褐色土、褐色土が層状に堆積している。自然堆積と考えられる。

構造上の特徴として、床面と考えられる底面は、やや硬質である。ピット、炉等は確認できなかった。

遺物は弥生土器・須恵器の破片が数点出土したが本遺構に伴うかは断定できない。

時期は中世と考えられるM3に切られることから、中世期または、これより時代が遡る遺構である。



- 1 黒褐色土層 (10YR2/8) ロームブロック、軽石、炭化物、砂。
- 2 黒褐色土層 (10YR2/8) ローム、ロームブロック、軽石、炭化物。砂やや多い。
- 3 暗褐色土層 (10YR3/8) ロームと砂、暗褐色土の混合土。
- 4 褐色土層 (7.5YR4/4) ローム主体。

H4号住居址遺構・遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
1	須恵器	甕	-	-	-	外面 叩き、自然釉付着 内面 ナア、輪積み痕	胴部破片	外面NG/O灰色他 断面実測

H4号住居址遺物観察表

H5号住居址

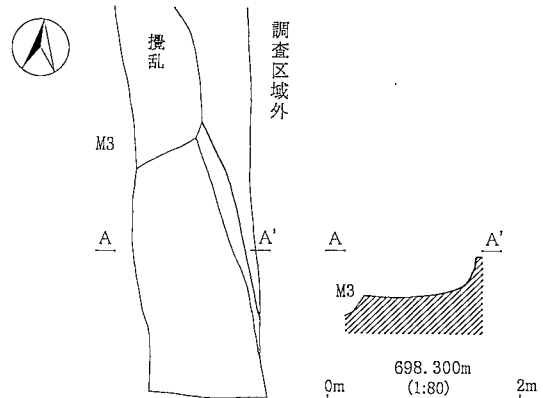
遺構はB区-3-くグリッドに位置し、北側を大きく攪乱に破壊され、西側は溝状遺構に破壊される。主軸はN12°Wである。

平面形態は調査範囲が狭小のため確定できない。

調査規模は、南北2.7m、東西1.1m、検出面から床面までの深さは45cmを測る。

ピット、炉跡等は認められなかった。

時期は不明である。



H5号住居址実測図

## 第2節 溝状遺構 (M)

### M1号溝状遺構

遺構はA区-2-え~A区-9-おグリッドに位置し、M2に切られ、D1を切る。東端はやや北側に張り出し、消滅する。

調査規模は、長さ9.4m、検出面上での幅0.8~1.2m、底幅40~60cmを測る。

近年、周辺の開発により以前より地下水の水位が上昇し、検出面下20~30cmで湧水が認められる。

遺物は、弥生土器の甕・壺・鉢が出土した。特徴的な遺物として、東端付近から弥生土器の壺、礫、1/2を欠損した環状石斧が出土した。

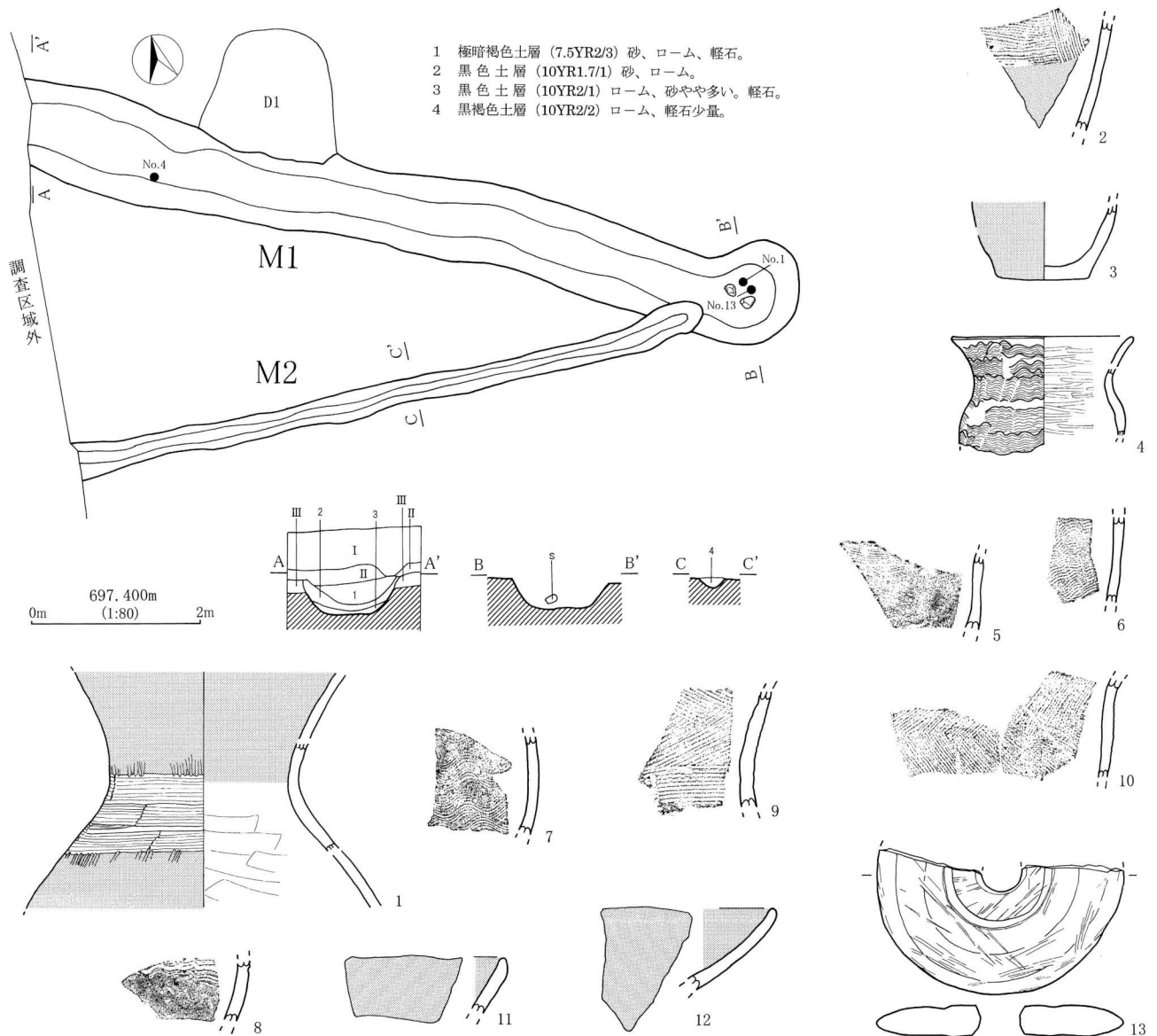
時期は、出土遺物から弥生時代後期箱清水期としたい。

### M2号溝状遺構

遺構はA区-2-お~A区-10-おグリッドに位置し、M1を切る。

調査規模は、長さ7.6m、検出面上での幅30~36cm、底幅10~15cm、検出面から底面までの深さは12cm内外を測る。

遺物は出土しなかった。時期は断定できないが、弥生時代後期のM1を切ることから弥生時代後期以降の遺構である。



M1・2号溝状遺構、M1号溝状遺構遺物実測図



番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
1	弥生土器	壺	-	-	<14.2>	外面 赤色塗彩、やや磨耗による色落ち、頸部櫛描横線文 内面 口辺赤色塗彩、ナデ	頸部周辺	外面2.5YR5/6明赤褐色他 完全実測・一部回転
2	弥生土器	壺	-	-	-	外面 赤色塗彩、頸部櫛描横線文・垂下文 内面 刷毛目状ナデ	頸部周辺破片	外面10R4/6赤色他 断面実測
3	弥生土器	小型壺	-	5.4	<4.6>	外面底部 赤色塗彩 内面 ナデ	底部～胴部一部	外面10R4/8赤色 完全実測・一部回転
4	弥生土器	甕	10.8	-	<6.4>	外面 波状文 内面 横ミガキ	40	外面5YR2/1黒褐色他 完全実測・一部回転
5	弥生土器	甕	-	-	-	外面 櫛描波状文、頸部櫛描横線文 内面 ミガキ	頸部周辺破片	外面2.5YR6/8橙色 断面実測
6	弥生土器	甕	-	-	-	外面 櫛描波状文 内面 ミガキ	破片	外面5YR6/6橙色 断面実測
7	弥生土器	甕	-	-	-	外面 櫛描波状文 内面 ミガキ	破片	外面7.5YR3/3暗褐色 断面実測
8	弥生土器	甕	-	-	-	外面 櫛描波状文、ミガキ 内面 ミガキ	破片	外面2.5YR4/6赤褐色 断面実測
9	弥生土器	甕	-	-	-	外面 櫛描羽状文、頸部櫛描横線文 内面 剥離	破片	外面7.5YR7/3にぶい橙色 断面実測
10	弥生土器	甕	-	-	-	外面 櫛描羽状文 内面 ミガキ	胴部破片	外面7.5YR4/3褐色 断面実測
11	弥生土器	鉢	-	-	-	内外面 赤色塗彩	口縁破片	外面10R5/6赤色 断面実測
12	弥生土器	鉢	-	-	-	内外面 赤色塗彩	口縁破片	外面10YR4/6赤色 断面実測
番号	器種	器形	最大径(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	調整・文様	備考	
13	石器	環状石斧	14.9	2.2	235.09	中央に2.5cmの穿孔 表面にすり痕あり 両面中央付近に有段		

### M1号溝状遺構遺物観察表

#### M3号溝状遺構

遺構はB区-4-う～B区-3-くグリッド及びC区-4-あグリッドの南北に存在し、M4・H2・3・4・5を切る。

調査規模は、B区で長さ19m、検出面上での幅1.6～1.8m、底幅1～1.2m、C区で長さ1.8m、幅1.8m、検出面から底面までの深さは45cm内外を測る。M4・5とほぼ併走する状態で存在し、B区北側で緩やかに交差し始め、C区では、東西の位置関係が東から西へと入れ替わる。

構造上の特徴として、断面形状は検出面から緩やかであった傾斜が35cm内外の深さで、急な角度に変わり、底幅の広い箱堀状になる。底面は硬質である。構造の特徴から道路遺構である可能性も考えられる。

遺物は弥生土器片が出土したが数は少なく伴う遺物である可能性は少ない。

時期は、弥生後期の遺構をすべて切っていることから、弥生時代後期以降の溝と考えられる。本調査区南で調査が行われた北一本柳遺跡Ⅱの溝跡は、本遺構の真南に位置し、方向、形状が酷似していることから同一遺構である可能性が高い。時期については中世と報告されている。

#### M4号溝状遺構

遺構はB区-4-う～B区-3-くグリッド及びC区-4-あグリッドの南北方向に存在し、M3に切られ、M5を切る。

調査規模は、B区で長さ19m、検出面上での幅0.9～1.2m、底幅0.45～0.65m、検出面から床面までの深さは最大で60cm、C区で長さ1.8m、掘り下げ時の幅1.8m、底幅1.6m、検出面から床面までの深さは20cm内外を測る。M3・5とほぼ併走するように存在し、B区北側で緩やかに交差し始め、C区では、東西の位置関係が西から東へと入れ替わる。

構造上の特徴として、土層断面から、B区では検出面から緩やかな傾斜で掘り込まれ、深さ50cm付近で急角度となり、幅80cm内外、深さ50cmの溝状となる2段掘りである。C区では2段掘りの状況は確認できなかった。深い2段目部分が、M4より深いM3と重なったために消失した可能性も考えられる。遺物は弥生土器片が僅かに出土した。

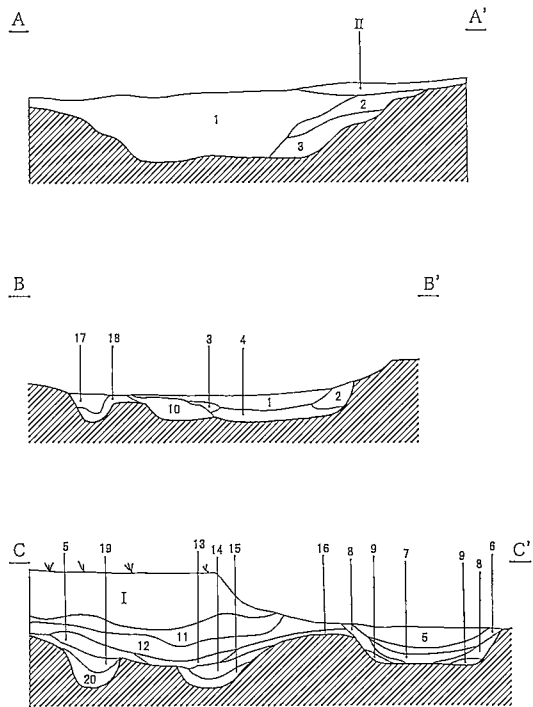
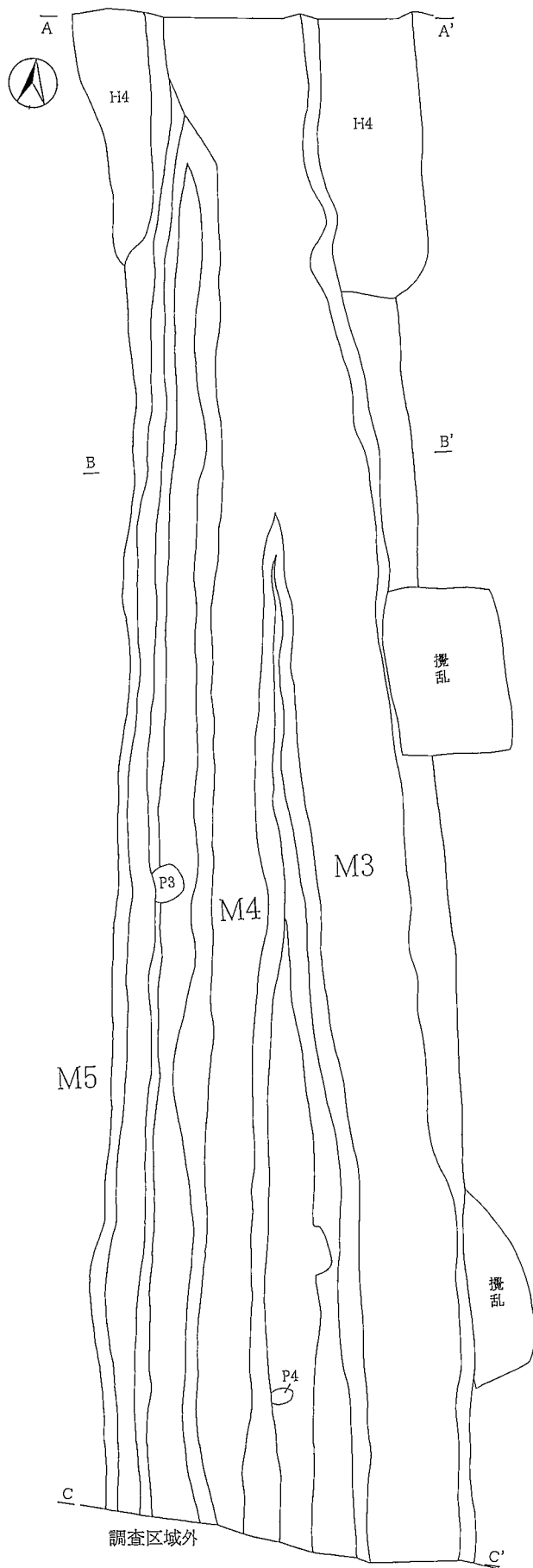
時期は、弥生時代後期のH2を切り、中世と考えられているM3に破壊されていることから、弥生時代後期から中世の間に存在した溝であり、周辺調査で発見されている弥生時代と考えられる環濠の延長上に存在することから、弥生時代後期後半～末としたい。

#### M5号溝状遺構

遺構はB区-4-う～B区-4-くグリッドに存在し、C区にも位置的に延びる可能性が考えられたが、土層断面からも存在は確認できなかった。M3・4に切られ、ほぼ併走する形で存在することから、C区ではこれらの遺構に完全に破壊された状態である可能性が考えられる。また、H1と切り合い関係にあるが、検出段階で覆土の重なりが確認できなかったため不明である。

調査規模は、長さ17m、検出面上での幅0.7～1.2m、底幅0.2～0.4m、検出面から底面までの深さは50cm内外を測り、B区の南から17m地点で、M3・4に切られるように合流し、消滅する。

構造上の特徴として、底幅が30cm内外の狭い底面から急な角度で40cm程度立ち上がる。



#### M3

- 1 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム、軽石。
- 2 にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 砂と黒褐色土の混合土
- 3 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム、軽石。
- 4 黒褐色土層 (10YR2/3) 軽石、砂、ロームブロック。
- 5 極暗褐色土層 (7.5YR2/3) ローム、砂、軽石。
- 6 黒褐色土層 (7.5YR2/2) ローム、砂、軽石。
- 7 暗褐色土層 (7.5YR3/3) ローム、砂、軽石。
- 8 黒褐色土層 (7.5YR2/2) ローム粒、ロームブロック、砂、軽石。
- 9 褐色土層 (7.5YR4/6) ローム主体、砂。

#### M4

- 10 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム、砂、ロームブロック。
- 11 黒色土層 (10YR1.7/1) ローム、軽石、砂少量。
- 12 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム、軽石、砂少量。
- 13 極暗褐色土層 (7.5YR2/3) ローム、軽石少量、砂やや多い。
- 14 黒色土層 (10YR2/1) ローム、軽石、砂少量。
- 15 褐色土層 (7.5YR4/4) ローム、砂主体。
- 16 褐色土層 (10YR4/6) ロームと黒褐色土の混合土。ローム、ロームブロック多い。

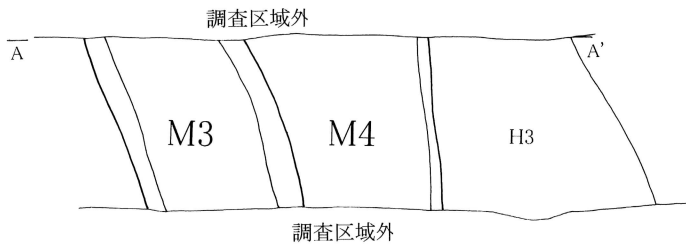
#### M5

- 17 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム、砂。
- 18 褐色土層 (7.5YR4/4) ロームと褐色土の混合土。
- 19 極暗褐色土層 (7.5YR2/3) ローム、砂、軽石少量。
- 20 暗褐色土層 (7.5YR3/4) ローム、砂やや多い。

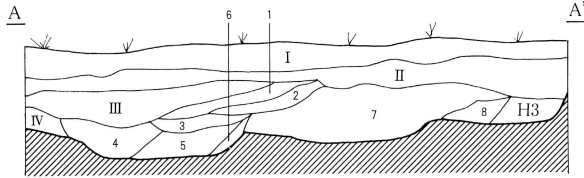
0m 698.600m  
(1:80) 2m

M3・4・5号溝状遺構(B区)実測図



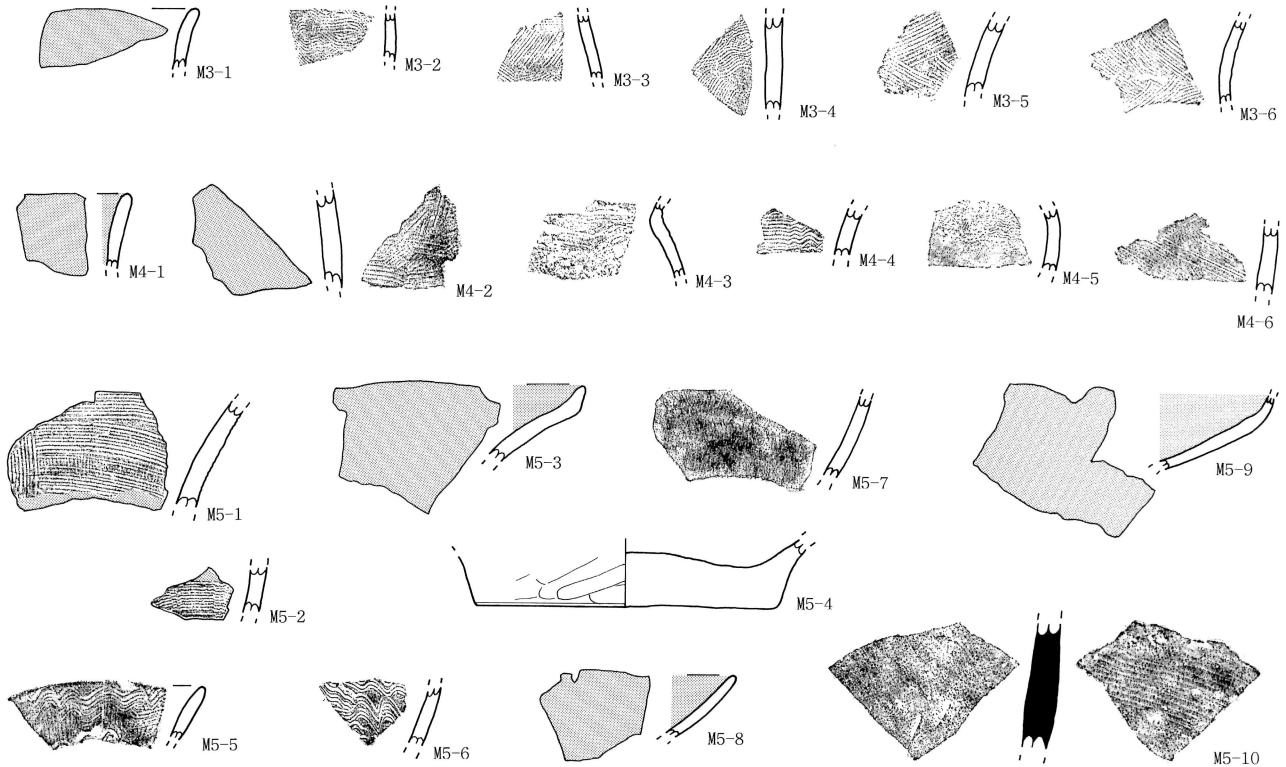


- M3
- 1 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム粒、軽石やや多い。炭化物。
  - 2 黒褐色土層 (10YR3/2) ローム粒、ロームブロック、軽石やや多い。
  - 3 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム、軽石、炭化物やや多い。
  - 4 黒褐色土層 (7.5YR3/2) ローム、ロームブロック、軽石やや多い。ややしまりあり。
  - 5 暗褐色土層 (7.5YR3/3) ローム、軽石多い。ややしまりあり。
  - 6 褐色土層 (7.5YR4/3) ローム、軽石多い。しまりあり。
- M4
- 7 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム、軽石少量。炭化物。
  - 8 黒褐色土層 (10YR3/2) ローム粒・軽石多い。ややしまりあり。



M3・4号溝状遺構(C区)実測図

遺物は弥生土器が僅かに出土した。  
 時期は、弥生時代後期後半～末としたM4に切られ、断面形状がややV字の可能性があるので、弥生時代中期後半から後期としたい。



M3・4・5号溝状遺構遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
M3-1	弥生土器	壺	-	-	-	外面 赤色塗彩 内面 ナデ	口縁破片	外面2.5YR5/8明赤褐色 断面実測
M3-2	弥生土器	甕	-	-	-	外面 櫛描波状文 内面 刷毛目状ナデ	破片	外面7.5YR7/6橙色他 断面実測
M3-3	弥生土器	甕	-	-	-	外面 櫛描羽状文、頸部横線文 内面 ナデ	破片	外面7.5YR7/4にぶい橙色 断面実測
M3-4	弥生土器	甕	-	-	-	外面 櫛描波状文 内面 ナデ	破片	外面10YR6/2灰黄褐色 断面実測
M3-5	弥生土器	甕	-	-	-	外面 櫛描羽状文 内面 ミガキ	破片	外面10YR6/6明黄褐色 断面実測
M3-6	弥生土器	甕	-	-	-	外面 櫛描羽状文 内面 ミガキ	破片	外面10YR7/4にぶい黄褐色 断面実測
M4-1	弥生土器	壺	-	-	-	内外面 赤色塗彩	口縁破片	内外面10R4/8赤色 断面実測

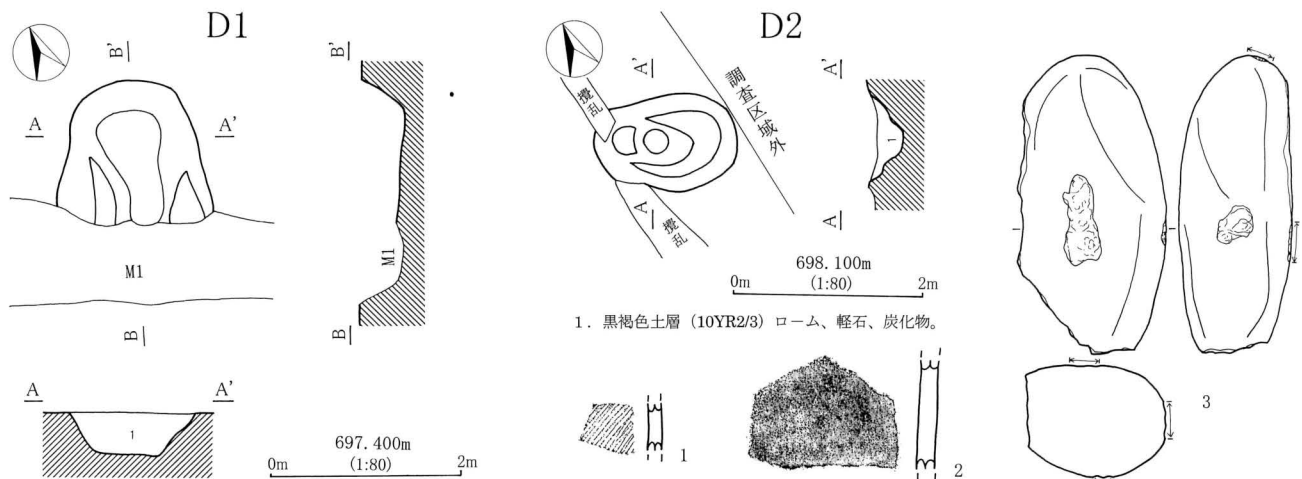
M3・4・5号溝状遺構遺物観察表(1)

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
M4-2	弥生土器	壺	-	-	-	外面 赤色塗彩 内面 刷毛目状ナデ	破片	外面10R4/8赤色断面実測
M4-3	弥生土器	甕	-	-	-	外面 櫛描波状文・頸部櫛描横線文 内面 ナデ	破片	外面7.5YR5/4にぶい褐色断面実測
M4-4	弥生土器	甕	-	-	-	外面 櫛描波状文 内面 ミガキ	破片	外面7.5YR6/4にぶい橙色断面実測
M4-5	弥生土器	甕	-	-	-	外面 櫛描波状文・ミガキ 内面 ミガキ	破片	外面7.5YR6/4にぶい褐色断面実測
M4-6	弥生土器	甕	-	-	-	外面 櫛描羽状文 内面ミガキ	破片	外面10YR7/4にぶい黄橙色断面実測
M5-1	弥生土器	壺	-	-	-	外面 頸部櫛描横線文・櫛描垂下文・赤色塗彩 内面 剥離	頸部破片	外面7.5YR6/4にぶい褐色他断面実測
M5-2	弥生土器	壺	-	-	-	外面 櫛描横線文・赤色塗彩 内面 やや磨耗	頸部破片	外面5YR6/4にぶい褐色他断面実測
M5-3	弥生土器	壺	-	-	-	内外面 赤色塗彩	口縁破片	内外面7.5R4/8赤色断面実測
M5-4	弥生土器	壺?	-	15.7	<3.6>	外面 ナデ 内面 磨耗	底部	外面7.5YR7/3にぶい褐色完全実測
M5-5	弥生土器	甕	-	-	-	外面 櫛描波状文	破片	外面7.5YR8/2灰白色断面実測
M5-6	弥生土器	甕	-	-	-	外面 櫛描波状文 内面 ミガキ	破片	外面7.5YR5/4にぶい褐色断面実測
M5-7	弥生土器	甕	-	-	-	外面 ミガキ 内面 ミガキ	破片	外面5YR5/3にぶい赤褐色他断面実測
M5-8	弥生土器	鉢	-	-	-	内外面 赤色塗彩	口縁破片	内外面7.5R4/8赤色断面実測
M5-9	弥生土器	鉢	-	-	-	内外面 赤色塗彩	口縁破片	外面10R4/8赤色断面実測
M5-10	陶器	甕	-	-	-	内面 叩き痕	胴部破片	外面7.5R4/4にぶい赤色断面実測

M3・4・5号溝状遺構遺物観察表(2)

### 第3節 土坑 (D)

ピットと区別するため、直径50cm以上の掘り込みを土坑として取り扱った。D1はM1に切られ、規模は短軸1.6m、長軸は調査規模で1.6m、深さは50cmを測る。D2はH2の床面付近で確認したが、調査区東壁土層断面から、H2を切ることが確認された。規模は長軸1.6m、短軸1.1m、深さは35cmを測る。

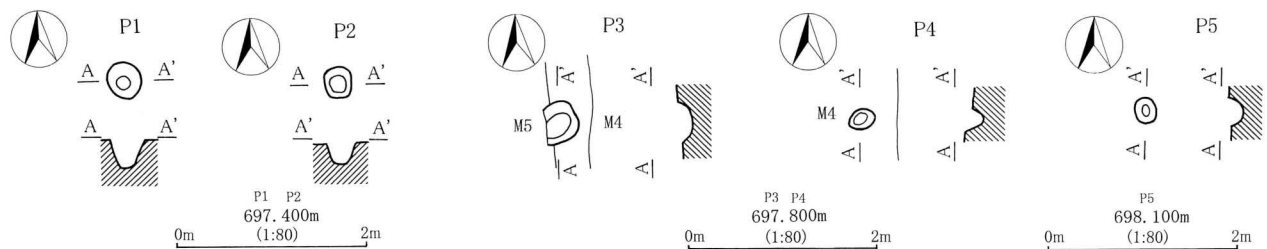


D1・2号土坑遺構、D2号土坑遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
1	弥生土器	壺	-	-	-	外面 櫛描文 内面 ナデ	破片	外面10YR6/3にぶい黄褐色断面実測
2	弥生土器	甕	-	-	-	外面 やや磨耗 内面 刷毛目状ナデ	破片	外面7.5YR6/2灰褐色断面実測
番号	器種	器形	最大調(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	調整・文様	重量(g)	備考
3	石器	敲石	[15.8]	[7.9]	[5.9]	片側端部及び側面欠損 側面及び正面に敲打痕	1023.79	

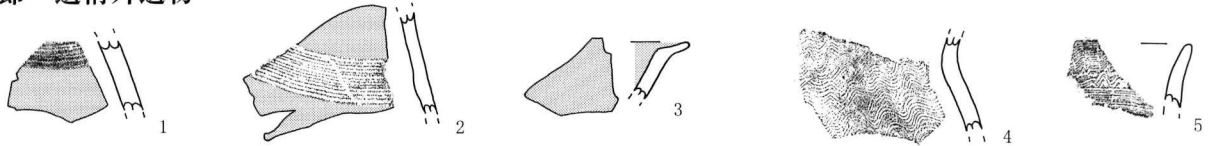
D2号土坑遺物観察表

### 第4節 ピット (P)



ピット実測図

## 第5節 遺構外遺物



遺構外遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
1	弥生土器	壺	-	-	-	外面 赤色塗彩・櫛描横線文 内面 ナデ	破片	外面10R3/4暗褐色 断面実測
2	弥生土器	壺	-	-	-	外面 赤色塗彩・磨耗により色落ち、櫛描横線文 内面 磨耗・剥離	破片	外面2.5YR5/6明赤褐色 断面実測
3	弥生土器	高坏?	-	-	-	内外面 赤色塗彩	口縁破片	内外面10R5/6赤色 断面実測
4	弥生土器	甕	-	-	-	外面 櫛描波状文 内面 ナデ・ミガキ	頸部周辺破片	外面10YR6/4にぶい黄橙色他 断面実測
5	弥生土器	甕	-	-	-	外面 櫛描波状文、櫛描横線文、口唇部縄目? 内面 ミガキ	口縁破片	外面7.5YR7/6橙色 断面実測

遺構外遺物観察表



調査区遠景(南西から)



A区全景(南東から)



B区全景(南から)



C区全景(西から)



A区調査風景(東から)



B区調査風景(南から)



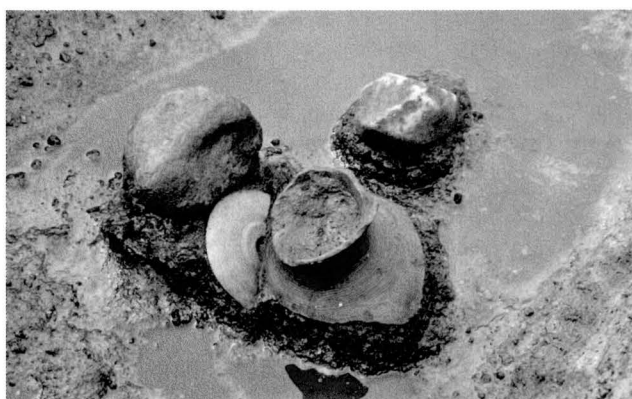
A区遺構検出状況(南東から)



M1号溝状遺構全景(南東から)



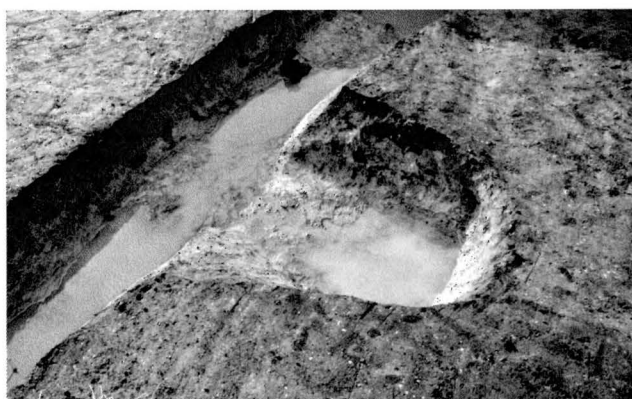
M1号溝状遺構遺物出土状況1



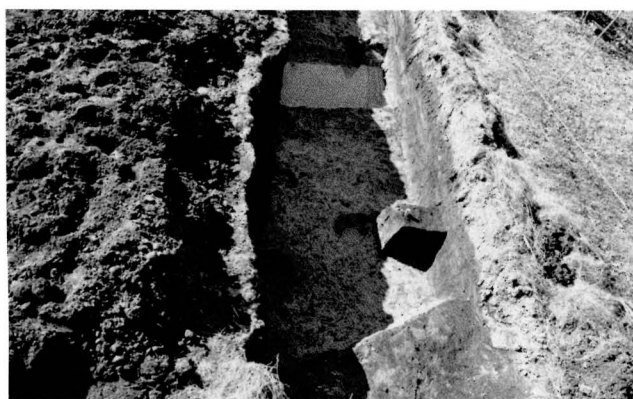
M1号溝状遺構遺物出土状況2



M1号溝状遺構遺物出土状況3



D1号土坑全景(東から)



H3号住居址、M3・4号溝状遺構全景(東から)

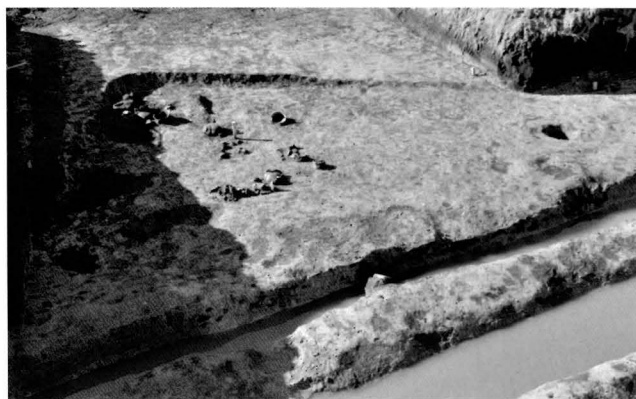


H3号住居址炉跡(東から)





B区遺構検出状況(南から)



H1号住居址全景(東から)



H1号住居址遺物出土状況1



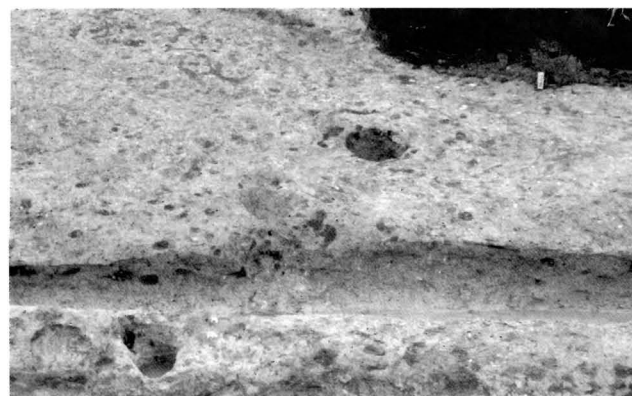
H1号住居址遺物出土状況2



H1号住居址遺物出土状況3



H1号住居址粘土塊出土状況(北から)



H1号住居址北側支柱穴・炉跡周辺(東から)



H1号住居址全景 遺物除去後(東から)



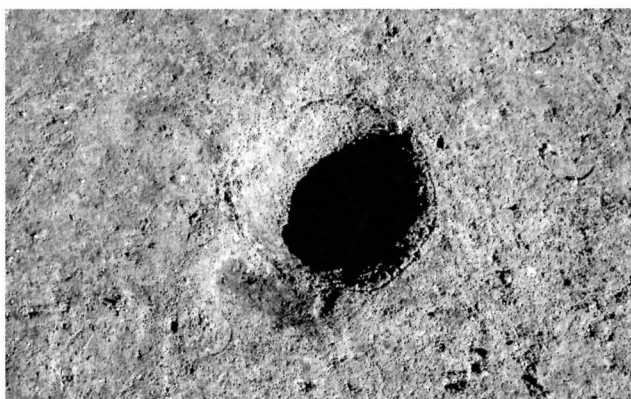
H1号住居址南壁周辺ピット(北から)



H2号住居址全景(南から)



H2号住居址炉跡



H2号住居址炉跡掘方



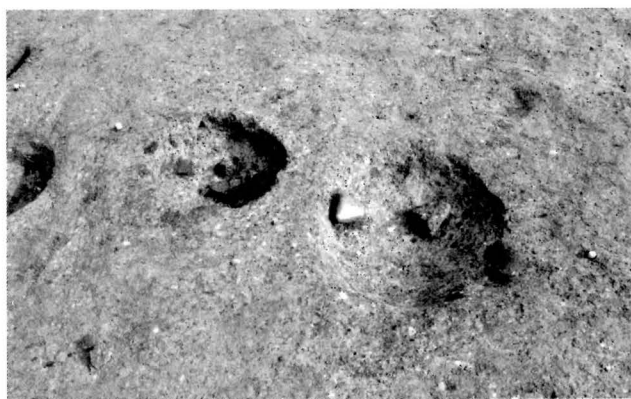
H2号住居址遺物出土状況



H2号住居址掘方全景(南西から)



H2号住居址床下炉跡確認状況



H2号住居址床下炉跡





H2号住居址南西コーナー掘方(東から)



H2号住居址床下ピット1



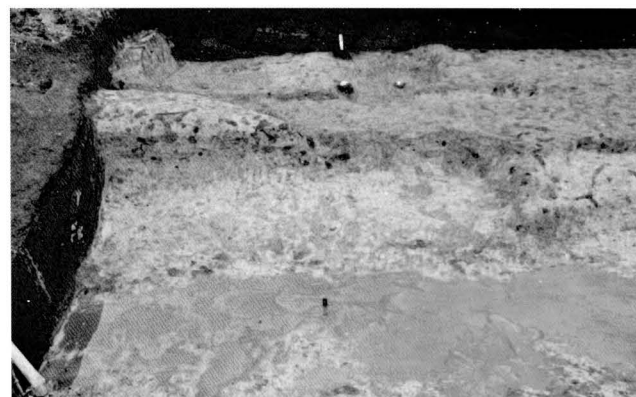
H2号住居址床下ピット2



H2号住居址床下ピット3



H2号住居址ピット



H4号住居址全景(西から)



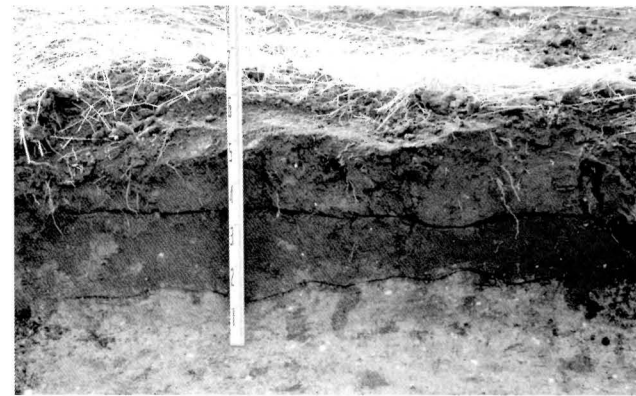
H5号住居址全景(西から)



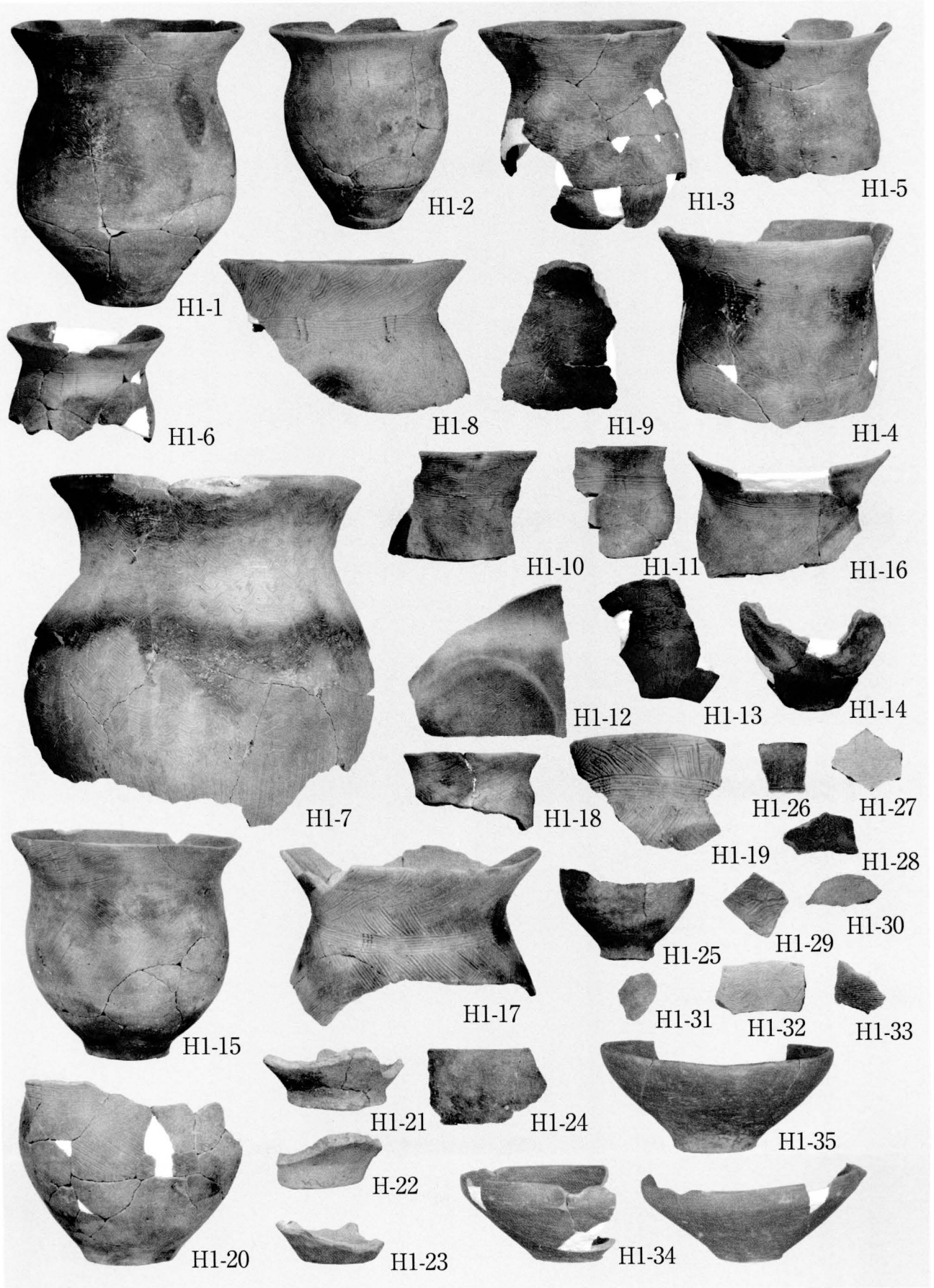
B区M3・4・5号溝状遺構全景(北から)



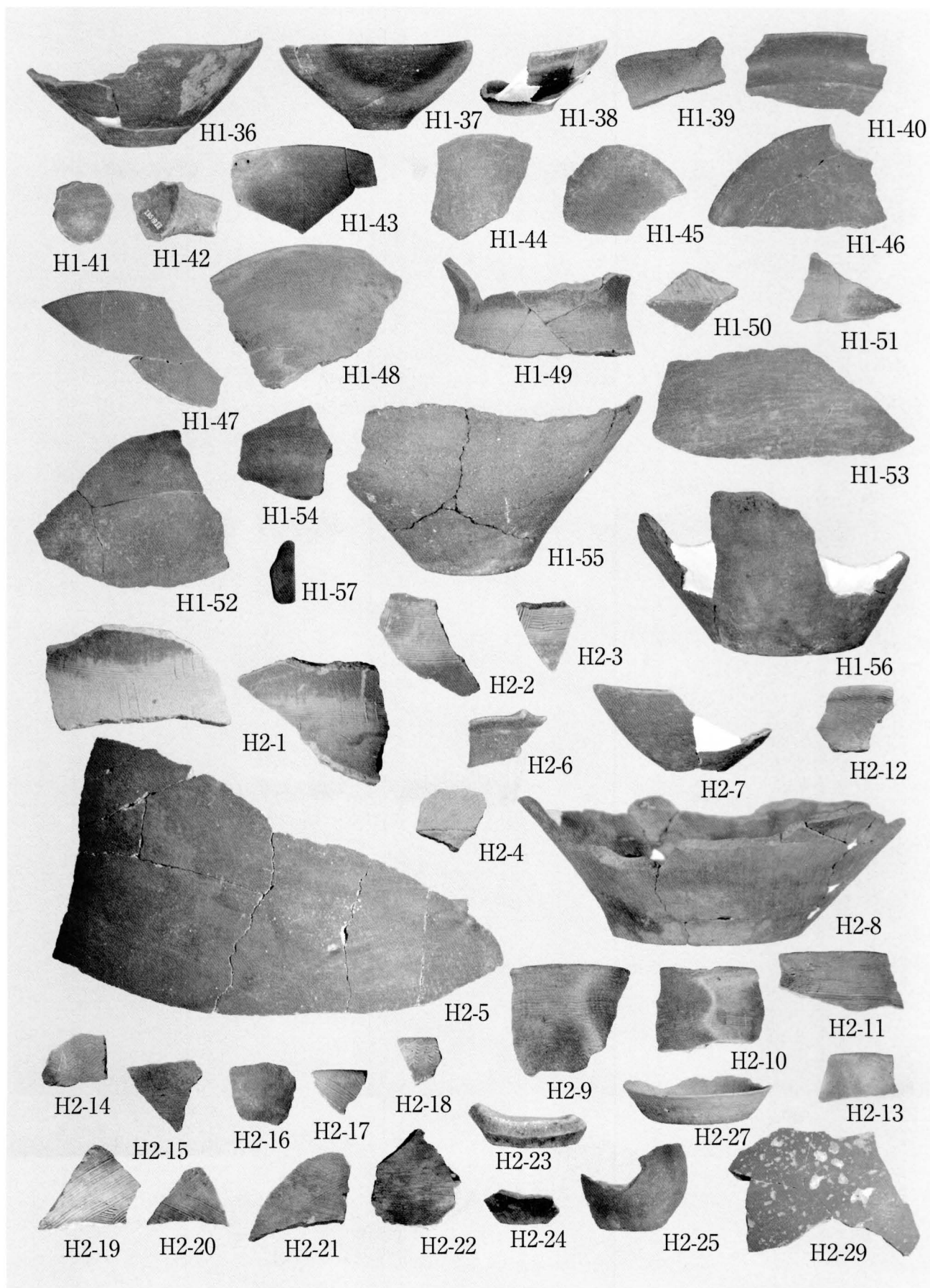
D2号土坑全景(南西から)

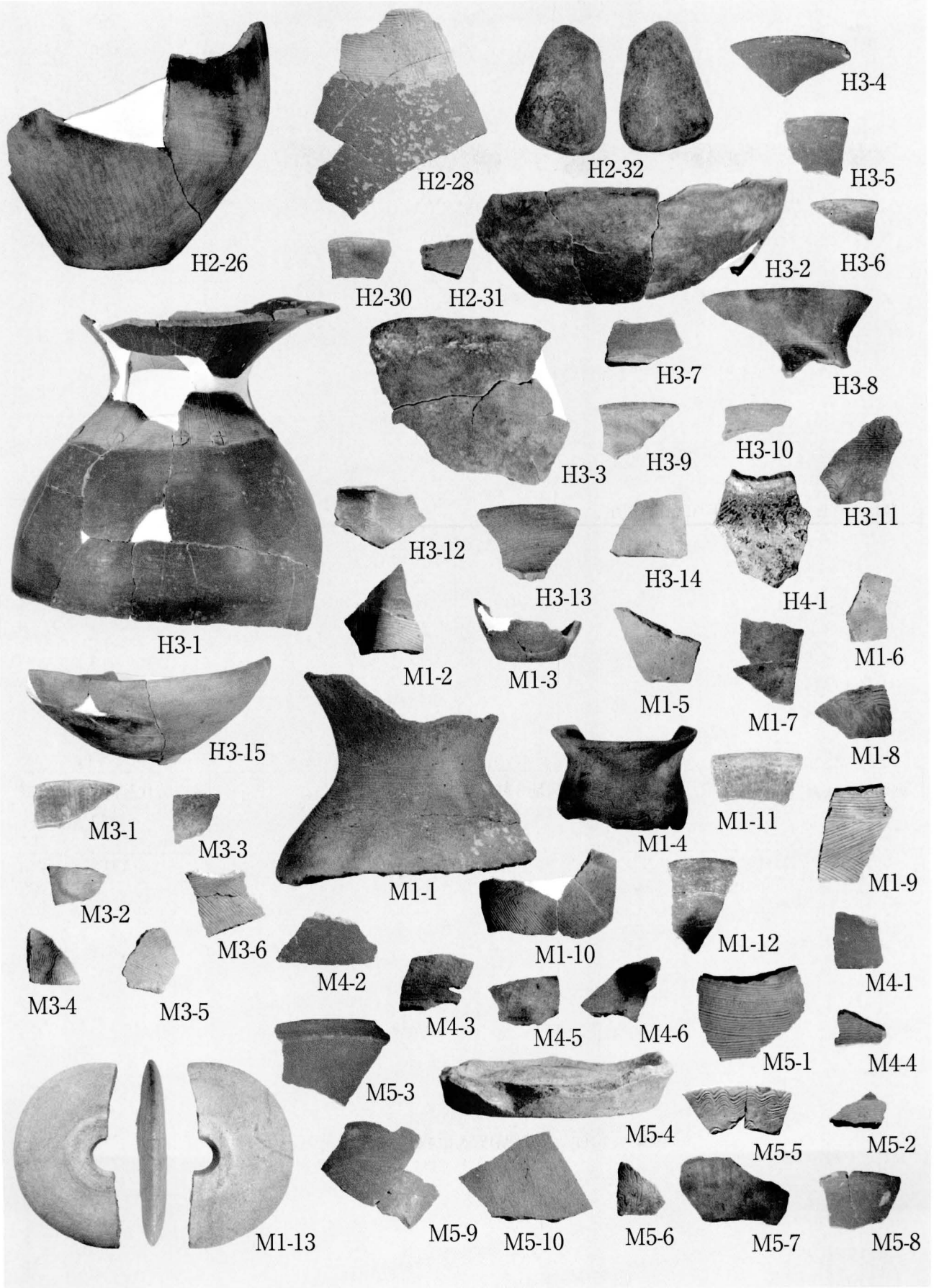


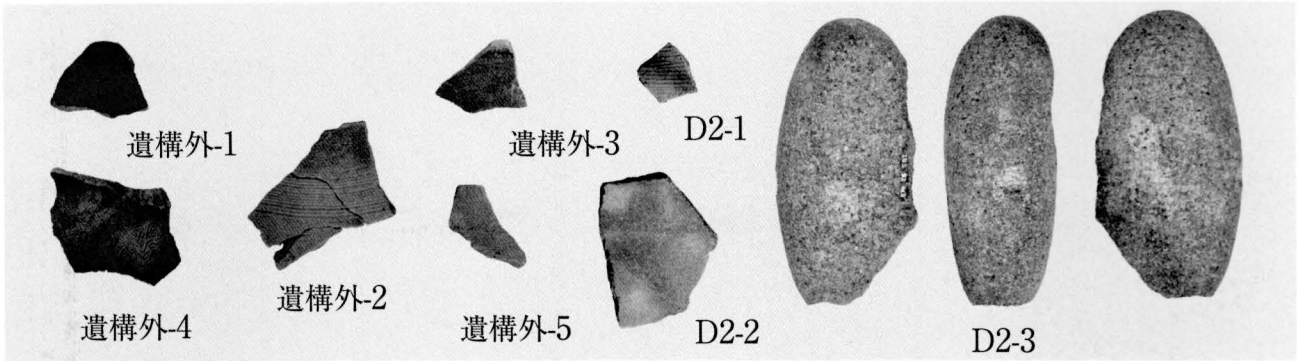
基本層序(B区東壁面)











ふりがな	いわむらだいせきぐん にしだいもんさきいせき							
書名	岩村田遺跡群 西大門先遺跡							
副書名	-							
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第233集							
編著者名	上原 学							
編集機関	佐久市教育委員会文化財課							
所在地	長野県佐久市志賀 5953 TEL 0267-68-7321 FAX 0267-68-7323							
発行年月日	平成27年(2015)3月							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積㎡	発掘原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
いわむらだいせきぐん にしだいもんさきいせき	さくしいわむらだ あざにしだいもんさき	20217	52	36° 16' 02"	138° 28' 24"	20141111 ~ 20141201	270	宅地造成
岩村田遺跡群 西大門先遺跡	佐久市岩村田 字西大門先 2046-1 2050-1							
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
岩村田遺跡群 西大門先遺跡	集落	弥生	竪穴住居址5軒、溝状遺構5条、土坑2基、ピット5個		弥生土器、石器・石製品、土製品		弥生時代後期の集落及び弥生・中世の溝状遺構が発見された。	
要約	岩村田市街地南西の湯川から比高差約20mを測る台地付近に展開する遺跡である。本遺跡が所在する湯川右岸の台地縁辺付近は遺跡の密集地域として周知され、弥生時代から中世に至る幅広い時代の遺跡が多数所在している。今回の開発地域からは、試掘確認調査によって弥生時代後期後半の集落が展開することが判明し、また、弥生時代及び中世に掘り込まれたと考えられる南北方向の溝状遺構が発見された。弥生時代の溝状遺構については、周辺の発掘調査において、今回発見された遺構を含め、断片的ではあるが環状となるであろう状況が見受けられる。また中世の溝状遺構については、箱掘り状でやや浅く、底面が幅広の硬質であることから、道路遺構である可能性も考えられる。							

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第233集

岩村田遺跡群 西大門先遺跡(I D S)

平成27年(2015)3月

編集・発行 長野県佐久市教育委員会

〒385-8501 長野県佐久市中込3056

文化財課

〒385-0006 長野県佐久市志賀5953

電話 0267-68-7321

印刷所 株式会社 佐久印刷所